モントリオールへの道

モントリオールオリンピックまであと一年余りとなり、日本のハンドボール界も、いよいよ本格的に動き始めた。

女子は先日のイスラエル戦に勝って世界女子選手権の出場を決め、さい先のよいスタートを切った。

ところでヨーロッパ予選で敗れた西ドイツなどは、もうすでにこの時点でオリンピックを断念せざるを得ない。強豪ぞろいのヨーロッパの中で今度の出場を決めるには、各国とも相当に厳しい戦いをしたに違いない。

その点、アジアの中にある日本は恵まれていると思う。アジア各国はまだハンドボールの歴史が浅く、十分に普及していないので、今回の場合も対戦相手が少なく、結果として、日本が圧倒的な強さを発揮したと言っていい。

男子の場合も同じことが言えるだろう。

今年の秋から来年の春にかけて行なわれるオリンピック予選でもヨーロッパの激戦は明らか七カ国待ったなしという狭き門をくぐるには、じん常の強さだけでは通じない。心技ともにたくましさが不可欠だし、本舞台に出た時、日本—ヨーロッパの目に見えぬ差というのは、案外こんなところに原因があるのかもしれない。

予選でさしたる強敵のいない日本は幸運と言えるが、手ばなしで喜ぶのは考えものなのだ。

アジア予選を軽視することはもちろん慎しまねばいけないだろうが、いつまでも、アジアを勝ち抜くことだけで、満足していてはならないだろう。

要するに、今いちばんナショナルチームに大事なことは、モントリオールで、いかにしてヨーロッパ勢の厚い壁を破るかなのである

それは容易なことではない。もちろん誰もがわかっていることだ

しかし、それは日本のハンドボール向上ばかりでなく、アジア全体の向上にもつながるということも忘れないでほしい。

やっと道が開け始めたのだからこれから先、この道が広くなるかそれとも消えてしまうかが日本の活躍にかかっていると言っても、決して過言ではないと思う。

長いハンドボールの歴史の中でモントリオールオリンピックはその一部にすぎないかもしれない。

しかし、そのようなことを自覚して、残りの一年を頑張ってほしい。

（青木敬子）

市民ハンドボールの芽

町内にうまくハンドボール経験者が居て、チーム編成にこぎつけユニホームの柄（がら）はどうの、背番号はどうのと楽しい会話がはずんだが、さて、どこで、誰と試合するのかという肝心な話になって、ハタと行き詰まってしまった。

結局、このチームは生まれずじまい。一夜、お酒をくみかわして、あれこれと夢を語ったのが唯一の〝思い出〟だった……。

筆者の友人が語ってくれた話である。

これと似たケースは、かなりあるらしい。

やはり、○○協会といった屋根の下に入らねば、市民ハンドボールチームは育たないのだよと友人は言葉をついだ。

そうだろうか。たしかに、地方協会が最近は、町のチームの組織化へ乗り出し、県大会、市大会の運営を実力別にするなど工夫しているのは、喜ばしい傾向だし、その努力を買いたいが協会事業への参加となると、やはりどこか杓子定規〟尻ごみするムキもあるのではないか。

そこで薦めたいのは、プライベート・リーグの結成だ。同好、同型のチームを誘いあって、協会とは別のところで組織づくりをするわけである。

日本のハンドボール界は、やれ××連盟だ、やれ△△協会だなどと、数え切れぬほどの組織があるし、いずれも上部体制となんらかのつながりをもっている。

プライベート・リーグは、そうした〝周囲〟とはいっさい絶縁し仲間だけが、いい意味で、好き勝手に、試合を組み、〝大会〟を消化するわけである。

こうしたところへ、地方組織が望まれれば公認審判員などを派遣して助成するようになれば理想的だと思う。

（話はそれるが、元来、協会だとか連盟だとかの業務はそうしたことが主たるもので、権威機関ではないのである。）

プライベート・リーグの動きはすでにいくつか知らされている。

学習院女短大、青山学院大女子などが、関東学連入りの準備段階として、独自のリーグを組み、〝公式戦〟を消化しているのも、その一例といってよいだろう。

ちなみに、このリーグは「インター・ミンクス」—おてんば娘対抗戦とでも訳そうか—と命名されている。

新しく、楽しい企画は無尽蔵である。

（杉山）

「ハンドボール」50年6月号（第131号）目次

モントリオールへの道……(1)
市民ハンドボールの芽……(1)
全国理事会……(2)
7月に全国 教育系大学研修会……(5)
日本実業団リーグ(女)開く……(7)
第4回日韓社会人交流……(8)
全日本自衛隊選手権……(10)
アンケート・有力チーム新戦力……(12)
審判部中央研修会報告……(16)
各地学生春季リーグ……(18)
日韓学生メンバー……(19)
海外トピックス……(26)
アメリカのハンドボール……(29)
各地の記録……(30)
明日への提言……(32)
編集後記……(32)

【表紙写真】関東学生春季リーグ・優勝をかけた中央×法政戦中央の攻撃。
（5月10日・駒沢屋内球技場）撮影・山田真一

オリンピック予選 日本誘致は見送りに

財政危機……役員協力金徴収で突破へ

全国理事会

日本協会は5月17日午後2時から東京渋谷の岸記念体育会館で全国理事会（定数33名以内、現在数29名、出席24名＝成立）を開き、緊迫する財政問題、モントリオールオリンピックアジア予選などについて協議した。

財政問題については、収入の頭打ちと、事業の拡大、物価高とうによる支出の大幅増から、全組織あげて財源調達を進めることに意見が一致、とりあえず「役員協力金」を復活させる。

アジア予選については、エントリーしている5カ国を日本に集めて予選会を開くことは見送ることに決まり、代案の提出を申し合せた。

全国理事会が緊急招集されたのは、日本協会の台所が大きくゆらぎはじめ、早急に対応策をこうじなければ、今年度以降、健全な協会運営が維持できなくなる事態におそわれたことと、モントリオール・オリンピックアジア予選をめぐる諸問題で、結論を急がねばならなくなったからだ。

財政問題は、3月末、旧執行部により本誌129号既報のとおり一応収支のバランスがとられたかにみえたが、新財務部スタッフは、収入予算面で日本体協からの補助金（競技力向上費）、協賛金、出版物売りあげ（ルールブック、テキストブック）など不安定な要素が多いとして、4月以降、三たび洗いなおしを進め、編集部費（約700万円）を除く一般会計支出予算二〇、二一三、九〇〇円に対し、同収入予算一六、七五七、〇〇〇円を改めて計上、三、四五六、九〇〇円の不足を訴えることとなった。

新しい財源開発を考慮

世界女子予選の支出で繰越金がまったくないためこのマイナスが埋まらなければ50年度事業の大半が縮少あるいは削減されねばならず、かといって今年度の加盟金、登録金などは、すでに全国代議員会（2月23日・東京）で議決され今さら増額申し入れは望めない。

また、財源不足となると、すぐにチーム、個人登録料へはね返すこれまでの旋策に対する反省もあり、財務部は、新しい財源開発に思考を重ねてきた。

その結果、ナショナルチーム（男女）の合宿を企業、自衛隊などのバックアップで経費を切り詰めて行うなど支出面に工夫をこらして節減をはかる一方、公認ボール同ネットの購入を促進して検定料の増額をはかる、登録チームの増加（特に一般Aランク）による収入増を改めて推進することとなり各理事の了解を求めた。

具体的な応急方法としては、バッヂなどの販売が話題となったが作成費、徴収の「てま」などから見送られ、47年度にいちど採用した「役員協力金」の復活が財務部から示された。論議を煮つめた結果、日本協会役員をはじめ全都道府県協会役員を対象にして実施と決まり、各組織に対する協力額は改めて財務部が、実情を調べたうえ、文書提示することとなった。

財務部の意向は、一協会の役員を平均25人とみて、約千二百人の役員から募金をあおぐというもので500万円を目標としている。

47年度の時は、一協会あたり2万円（1人千円×20役員）という算出根拠から、年度内納入県25（ほかに4加盟団体）、年度後納入県22（ほかに1加盟団体）で〝完納〟され104万円を得ている。

非常事態の様相を呈す

また、長期的な対策として、ハンドボール用具の開発を企画し、パテント料、マーク使用料の収入をはかる②小学生、児童を対照としたミニハンドボールを確立し、その用具、遊具、ボールなどの公認料、パテント料の収入をはかる③運動服装などについても日本ハンドボール協会が斡旋、手数料の徴収をはかる――などの財務部案が示され、今後、研究を進めることになった。

このほか、収入財源となる競技会の開催を積極化する案が示され現行の日本実業団リーグ（男女）を「日本リーグ」とし、開催権料（1試合1～3万円）を徴収するという具体的な提案もあって注目された。

しかし、これらの事業は、机上と現実ではかなり「差」があり、横たわる課題も一朝一夕には解決をみない。

財務部が、かつてない提案と、財源構想を明きらかにしたのは、それだけ、危機感が強まっていることを示すもので、日本協会、地方協会を問わず、深刻にこの問題をうけとめることが強く望まれよう。

出席した各理事も、緊迫した事態を改めて認識、体制立てなおしへの協力を約したが、拡充一方の協会事業に見合う財源確保は、今後ますます大きなテーマとして乗しかかってきそうで、「非常事態」は一段とそのカゲを強めて迫っている。現時点では会長以下、全役員一丸の努力が活路を見出す唯一の光である。なお、席上さきの世界女子アジア予選に約一千万円（Aゾーン253万、決勝756万円）の費用がかかったと報告された。

難題多い「5カ国集結」

モントリオール・オリンピックアジア予選については、荒川理事長から、日本、イスラエル、韓国台湾、クウェートの5カ国がエントリーしていることが説明され、「5カ国2回総当り」の予選会を日本で開催するかどうか、IHF（国際ハンドボール連盟）へ6月30日までに返答しなければならないことが明きらかにされた。

各理事は、3月の日本×イスラエル戦（世界女子アジア予選）の経験からか、積極的な発言は少なく、荒川理事長も①たとえ全20試合の半数以上を地方が分担開催しても、全経費（千五百～二千万円・概算）をまかない切る見通しは暗い②イスラエルの治安が再び問題になる③国交のない台湾の入国

に確約がない――などで、ミュンヘン時のように日本開催にこだわることはない、との意向を述べた一部の理事から、1月26日の全国理事会で、日本開催の方向が確認されていることや、サッカー界がイスラエル、台湾を含むアジア予選の日本開催を決めていることなどの理由で、前向きに検討すべきだという発言もあったが、見送りムードが支配的となり、予選会の招致には乗り出さないこととなった。

トーナメント式を提案

しかし、政治の糸がからむアジアだけに、日本以外の各国も、5カ国を自国に集結させることについては、かなり難色を示すとみられ、アジア予選が宙に浮くことも充分に考えられる。

その場合、日本はIHFに対し「トーナメントシステム（ナックアウトシステム）」を提案することになった。

このケースでも、さまざまな問題が生じるわけで、トラブルを極力さけることから、荒川理事長は組み合せ私案を示し、日本対韓国と、日本が決勝へ進出した場合の2カード（計4試合）を日本で行いたいと述べた。

> **荒川私案**▽1回戦①日本対韓国②台湾対イスラエル
> ▽2回戦　①の勝者対②の勝者
> ▽決勝　2回戦の勝者対クウエート（いずれも各2試合）

この提案には、ほとんど異論が出ず、大野金一理事からの「過去の実績から、日本とクウェートを入れ替え、日本の決勝進出優先権を主張したらどうか」という意見を汲みいれ、荒川理事長が、渡辺和美IHFアジア選出理事と話し合うことでまとまった。また世界女子予選の際のような2次に分けて行う方式も提案の一つに加えることとなった。なお、他国で、5カ国を一堂に集め予選会を開くことに決まった場合、日本は、開催地がどこになっても参加することを改めて確認した。

佐賀国体の縮少さけられず

このほか、明年の佐賀国体（注・ハンドボールは神埼町）の参加人員が、規程（開催基準）に示されたランクのうち、最少の一万二千五百人の線に内定、ハンドボールも今秋の三重国体における千四十人（4種別5部門80チーム）を、七百八十人（60チーム）におさえこまれることがさけられない。

日本教員種目の存廃について、日本体協国体委員会が態度を決めていないため、この日の会議で、種別ブロック別の配当数まで議論は進まなかったが、いずれにせよ今秋よりも20チーム減というのはショック。AHF（アジアハンドボール連盟）問題～本誌前号11頁参照～については、これまでどおり、常務理事会へ一任され、特に論議はなかった。

事業面では、第2回全国高専選手権を8月28、29の両日、愛知県豊田市の豊田高専で開くことが決められた。

6時散会。

昭和50.51年度専門委員会

◇技術部（部長・渡辺慶寿常務理事）
岡田豊夫(北海道)，北村尚英(東北)，中島恒夫(北信越)
東　一敏(関東)，浅野克彦(東海)，小西博喜(近畿)
松原紀機(中国)，石原達夫(四国)，今村孝一(九州)
池田鉄哉(実連)，高橋健夫(教職連)，瀬田哲彦(自衛連)
藤原　侑(学連)，三浦　公(高体連)，
〔本部推せん〕阿部徳之助，近森克彦，藤川雍中，萩原一次，氷海正行，井薫，川上整司，坂理泰幸，清水克真，竹野奉昭，大西武三
〔部外協力者〕近藤金博(東京重機)，北川勇喜(日体大)，竹内正雄(星薬科大)

◇審判部（部長・安藤純光常務理事）
八重樫英治(北海道)，由利弘(東北)，金原至(北信越)，清水正(関東理事)，鈴木城(東海)，岡本克彰(近畿)，上田喜代治(中国)，河本武夫(四国)，日野博(九州)，近藤金博(実連)，藤田八郎(教職連・理事)，福井正躬(自衛連)，藤田信義(学連)，嶋田新太郎（高体連・常務理事）
〔本部推せん〕・ルール研究委員会＝上久保重次，島田房二，原信雄，岡前義春，大塚文雄，迫利通，佐野和夫，田中隆一

◇普及指導部（部長・勝繁夫常務理事）
岡田豊夫(北海道)，碇谷寿明(東北)，石田善彦(北信越)
高橋隆夫(関東)，岡田重博(東海)，狩野幸介(近畿)，浜口彰(中国)，酒井満(四国)，宍戸幸一(九州)，福本弘(実連)，北川勇喜(教職連)，室川正治(自衛連)，田中秀夫(学連・理事)，山田仁止(高体連)
〔本部推せん〕　斉藤和夫，大西武三，八木八一郎，香積見一，福地賢介，山野圭三，高田日呂美，平岡秀雄
・**普及指導部中学委員会**(担当・志田省吾理事)
宮崎光市(北海道)，高野尚之(東北)，松林喜久男（北信越)，砂長誠(関東)，西川勤也(東海)，中井泰彦(近畿)，田口和夫(中国)，楠原敏明(四国)，平井徳一(九州)
〔本部推せん〕＝人選中

◇総務部（部長・嶋田新太郎常務理事）
・**総務委員長**　嶋田新太郎（常務理事）
総務委員　滝口三郎(常務理事)，山田哲雄，高田日呂美
・**会計**　光嶋浩（常務理事）
・**国際渉外委員長**　境井秀三（常務理事）
国際渉外委員　大野金一(常務理事)，一宮昌平
・**広報委員長**　荒川清美（理事長）
広報委員　滝口三郎（常務理事）
・**加盟団体理事長会議**　荒川清美（理事長）
山田稔(実連・常務理事)，片瀬喜代次(教職連・理事)，富永劭(自衛連・理事)，中沢重夫(学連・理事)，清水正(高体連・理事)
※他に日本協会・嶋田，滝口，大野各常務理事参加

◇企画部（部長・滝口三郎常務理事）
大野金一(常務理事)，泉正明(常務理事)，光嶋浩（常務理事)，古庄昌雄(理事)，杉山茂

◇財務部（部長・神田清常務理事）
山田稔(実連・常務理事)，柳井文治(教職連・理事)，富永劭(自衛連・理事)，勝瀬幸貞(学連)，清水正（高体連・理事)，光嶋浩(常務理事)

◇特別委員会
・**編集委員会**（常設）
代表者　荒川清美（理事長）
編集委員　藤本強，光島磯雄，杉山茂(以上交渉中)青木敬子
・**国際交流事業委員会**（臨時）
委員長　荒川清美（理事長）
委員　嶋田新太郎(常務理事)，泉正明(常務理事)，大野金一(常務理事)，滝口三郎(常務理事)，境井秀三(常務理事)，杉山茂
・**アマチュア委員会**（常設）
委員長　荒川清美(理事長)，委員～随時～

◇審判審査委員会　入江暢一(理事)，嶋田新太郎（常務理事)，佐藤敦，藤田八郎(理事)，村田弘
・**懲罰委員会**（非常設）

◇事務局（職員）
堤　慎，森岡美子，青木敬子(編集委)

（注）（　）内の理事長，常務理事，理事は日本協会のポストを示す

7月に第2回教員養成大学研修会

新たに女子も

日本協会は、第2回を迎える全国教員養成大学ハンドボール研修会の実施要項を決め、発表した。

この研修会は、全国の教員養成大学に通う学生を対象に、合宿研修を行い、ハンドボールの正しい理論、新しいハンドボールの実践を通して、将来の指導者に必要な資質の向上を策ろうというもので去年の第1回は全国18大学から144名が参加、好評を得た。

今年は、参加資格を去年の〝国公立〟主体から〝私立〟まで拡げ女子学生の参加を認めたのが大きな特色である。

なお、参加申しこみ〆切日は今月30日（書類必着）とせまっており、担当の普及指導部は、関係者の注意を望んでいる。

○……第2回全国教員養成大学研修会要項……○

一、**主催** 日本ハンドボール協会

一、**後援** 文部省

一、**日程** 7月21日（午前8時受付）～7月24日午前11時30分、

一、**会場** 東京・日本青少年総合センター

一、**参加資格** 全国の国公私立の教員養成大学（学部を含む）の男女学生であること

一、**申しこみ・参加はチーム単位**（7～10名）で、個人参加は認めない。

・参加人員（約200名）に制限があるので、定員になりしだい〆切る

一、**申しこみ先** 日本ハンドボール協会（東京都渋谷区神南1の1の1、電03－467－七〇九七）

・参加希望チーム代表者は所定の参加申込書に参加料を添え、**6月30日まで必着するよう申しこみ手続きすること**

一、**経費** 参加料一人四千円（テキスト代を含む）。

研修期間中の宿泊費（7月21日昼食～24日朝食＝3泊4日）は、日本ハンドボール協会が全額負担する。

旅費は当該大学の道府県庁所在地から東京間の普通乗車賃の片道分を日本ハンドボール協会が負担する。ただし、実技研修会場移動のバス代は個人負担とする。

一、**講師** 斯界の権威者を充当

一、**指導者** 日本ハンドボール協会普及指導部委員、同技術部委員同審判部委員、男女ナショナルチームコーチングスタッフ、ミュンヘンオリンピック代表選手

一、**日程**（第1日・7月21日）9時30分開講式、10時講演、11時グループミーティング、13時基本技術、15時応用技術、18時30分～21時講議、ミーティング、映画など

（第2日・22日）8時講演、9時講議(審判)、10時体力づくり、11時グループミーティング、13時～17時実戦(ゲーム)、18時30～21時第1日に同じ

（第3日・23日）8時講議（技術Ⅰ）、9時講議（技術Ⅱ）、10時モティベーションエクササイズ11時グループミーティング、13時～17時実戦(ゲーム)、18時30分～21時第1日に同じ

（第4日・24日）8時講演、9時全体ミーティング　11時閉講式

一、**備考**・技術研修はできるだけ小グループ（1～2チーム）に分ける。

・チームの希望をいれて、指導者の割り振りを行なう

7MTを「PT」と改称

日本協会は、50年度版・競技規則の刊行にあたって、これまでの7MT（7meters throw）をペナルティ・スロー（Penalty throw）と改めた＝競技規則第14条

本誌でも今月号から、後記個人テーブルなどの標記を7MTからPTといたします。

エッセンなど見送りか

来日希望の外国チーム

日本協会は、5月17日の全国理事会で、今年度の国際試合(国内)について協議。その結果、来日を希望している「ルギ・ルンド」(スウェーデン5位)、「フェニックス・エッセン」（西ドイツ全国リーグ北地区7位）「ロコモティブ・プラハ」（チェコ2部リーグ）～いずれも男子～との交流は、「ルギ」を全日本学連がいぜん検討中なほか、いずれも見送りの公算が濃くなった。

第22回NHK杯国際試合（今秋9月・東京）は、6月の月例常務理事会で結論を出すが、休会となりそう。

全日本男女の強化日程 日本協会技術部は5月17日の全国理事会で、今年度の男女ナショナルチームの強化合宿日程を次のように発表した。

（男子）第1次6月25～29日、第2次7月20～30日、第3次8月31日～9月4日、第4次9月18～22日、第5次11月10～15日、第6次11月19～24日、第7次51年1月20～25日＝場所はいずれも未定

（女子）第2次6月16～22日（名古屋）、第2次8月1～9日(山梨県塩山市)、第3次9月上旬（未定）、第4次11月1～10日（東海地区）、第5次11月中旬(東京)＝場所はいずれもは交渉中

東海選出理事に伊藤和夫氏

本誌既報のとおり日本協会理事（前、中学部長）栗脇嶷氏（東海選出、日体出）の勇退が決まり後任は伊藤和夫氏(愛知協会理事長)となった。同氏は、5月18日の全国理事会で、常務理事（普及指導担当）に推された。

栗脇氏は、今後、愛知協会代議員となる。

3部合同会議スタッフ

日本協会は、新年度の「3部合同会議」（特別委員会）のスタッフ編成を急いでいたが、このほどまとまり、5月17日の全国理事会で報告された。

議長は安藤純光氏留任とみられている。初会合は6月に予定。

（昭和50・51年度3部合同会議）

渡辺慶寿、竹野奉昭、池田鉄哉（以上技術部）、安藤純光、佐野和夫、岡前義春(以上審判部)、勝繁夫、大西武三、高田日呂美（以上普及指導部）

実連で機関誌 全日本実連は、計画を進めていた機関誌「実連ハンドボール」（B5判、4頁活版）をこのほど刊行、関係者に配布した。当分、隔月発行の予定

◆**訂正** 本誌前号8頁、世界女子予選リーグE組はB組の誤り。

日本実業団リーグ開幕

立石、重機を突き放す

全国ファン注目の日本実業団リーグ（第16回全日本実業団選手権）が、5月23日栃木県体育館の女子・田村紡（三重）×日立栃木戦で開幕。

女子はこのあと6月15日まで、男子は31日から6月22日まで各地を転戦、国内最高レベルの攻防をくりひろげる。

日本ビクター田村に1敗

女子の第1週（5月23～25日）は熊本市体育館に2連勝を狙う東京重機（東京）をはじめ、立石電機山鹿（熊本）、大崎電気（埼玉）、ブラザー工業（愛知）が、栃木県体育館に日本ビクター（茨城）、田村紡績、日立栃木、東北ムネカタ（福島）がそれぞれ集結、12試合を消化した。

その結果、熊本大会では、立石が重機を押しまくって3勝、重機は主力の負傷でブラザーにも敗れ早くも優勝争いから後退した。

栃木大会では、ビクターが田村紡の多彩な攻撃に手痛い1敗をきっし、惑星視されていた日立栃木は元気なく3連敗、苦しいスタートとなった。第2週は5月31、6月1日。第1週の記録（速報）は次のとおり。

◇女子・第1週第1日＝5月23日

▽熊本（熊本市体育館）

東京重機 8（3－3、5－0）3 大崎電気

立石電機山鹿 17（7－1、10－8）9 ブラザー工業

▽宇都宮（栃木県体育館）

田村紡 15（9－5、6－3）8 日立栃木

日本ビクター 11（7－1、4－2）3 東北ムネカタ

◇同第2日＝5月24日

▽熊本

ブラザー工業 14（5－6、9－4）10 東京重機

立石電機山鹿 13（7－3、6－4）7 大崎電気

▽宇都宮

田村紡 15（8－3、7－4）7 東北ムネカタ

日本ビクター 17（6－2、11－3）5 日立栃木

◇同第3日＝5月25日

▽熊本

ブラザー工業 8（1－2、7－3）5 大崎電気

立石電機山鹿 17（9－5、8－5）10 東京重機

▽宇都宮

東北ムネカタ 9（4－3、5－1）4 日立栃木

田村紡 8（4－2、4－3）5 日本ビクター

男子、秀れた個人技も焦点

一方、男子は一足遅れ、5月31日名古屋・愛知県体育館、山口・徳山市体育館で火ぶたを切る。

3年連続3冠王を目指す大同製鋼（愛知）を筆頭に、湧永薬品（大阪）、三景（東京）、本田技研鈴鹿（三重）らの強豪グループ、巻き返しをはかる大崎電気（埼玉）、古豪・三菱レイヨン大竹（広島）、初参加に斗志を燃やす日新製鋼呉（広島）、三陽商会（東京）の8チームが磨きかけられたチームプレーを駆使して激突する。12人のモントリオールオリンピック候補選手を中心とした卓抜の個人技も興味

日本実業団リーグこれからの日程

6月7日(土)	13.30	女・	大崎－日立	東京重機体育館（調布市国領）
	14.40	男・	湧永－大崎	
	16.00	男・	本田－三陽	
	17.20	女・	重機－田村	
	17.00	男・	三菱－日新	呉市体育館
	18.30	男・	大同－三景	
8日(日)	11.00	男・	湧永－本田	東京重機体育館
	12.20	女・	大崎－田村	
	13.30	男・	三陽－大崎	
	14.50	女・	日立－重機	
	12.00	男・	大同－三菱	呉市体育館
	13.30	男・	日新－三景	
14日(土)	16.00	女・	ムネカタ－重機	岐阜県民体育館
	17.00	女・	ビクター－大崎	
	18.00	男・	大崎－日新	
	16.00	女・	ブラザー－田村	京都府立体育館
	17.10	女・	立石－日立	
	18.20	男・	本田－大同	
	18.20	男・	三景－三菱	平沼記念体育館（横浜市三ッ沢）
	19.40	男・	湧永－三陽	
15日(日)	12.00	男・	三陽－三菱	平沼記念体育館
	13.20	男・	三景－湧永	
	15.00	女・	大崎－ムネカタ	四日市市体育館
	16.10	女・	立石－田村	
	17.20	男・	本田－大崎	
	14.00	男・	大同－日新	名古屋市体育館
	15.20	女・	ブラザー－日立	
	16.30	女・	重機－ビクター	
	17.30	女子閉会式		
21日(土)	18.00	男・	三菱－大崎	大阪市立千島体育館
	19.15	男・	三景－本田	
22日(日)	13.20	男・	日新－三陽	大阪市立千島体育館
	14.40	男・	大同－湧永	
	16.00	男子閉会式		

円光ク（韓国）1勝にとどまる

～日韓男子社会人交流～

第4回日韓男子社会人交流は、韓国から円光倶楽部（クラブ、朴載録団長ら役員4、選手13）を招き、各地で5試合を行った。

円光クは、韓国学生界の強豪・円光大のOBチームで、まとまりのある攻守をみせたが、日本側も地元ピックアップチームが善戦、初編成の全日本自衛隊選抜も健斗して結局4勝1敗で勝ちこした。

これで通算成績は日本側の20戦12勝1分7敗となった。

押しまくった大阪社会人

第1戦・大阪社会人選抜との試合は、5月18日午後4時から大阪市大正区の市立千島体育館で行われた。審判＝前田吉弘、丸岡一清 観衆＝約千二百

大阪社会人選抜 35（16−9、19−4）13 円光ク

○……円光クは遠征疲れからか動きが鈍く、特に守備面で韓国得意のフットワークが見られず、池本安達、高橋ら大阪イーグルス勢を中心とした大阪社会人の鋭い攻撃を浴びた。

攻撃面では、ベテラン・金弘植のリードから金章燮、鄭鎮均らが好シュートを放っていたが散発的で大阪に対抗するだけのものはなかった。

大阪は、社会人連盟発足の記念試合とあって各選手が持ち味を存分に発揮、福井（湧永薬品）、川原（大山商会）両GKの堅守もあって円光クにつけいるスキを与えぬ快勝だった。（山田 稔）

実業団J、後半に力示す

第2戦・全日本実業団ジュニア選抜との試合は、20日午後6時から岐阜県民体育館で行われた。審判＝杉本真一、吉田元、観衆＝約二千

全日本実業団ジュニア選抜 17（6−8、11−4）12 円光ク

○……実業団Jは即席編成のうえ若さがのぞいて、先手をとられ苦しんだが、後半なかばから疲れのみえた円光クを一気に押しこみ逆転勝ちした。

立ちあがり実業団Jはコンビネーションがとれず、再三の好機にパスミスや、単調な突進を繰り返したため柔軟なボディワーをみせる円光クディフェンスのカットにあって逆に速攻を決められた。

○……円光クの要は、金弘植（ミュンヘンオリンピック・アジア予選代表）。彼の好配球による直線的な攻めから権、金鍾順らが鋭いシュートを射ちこみ、10分6−2、15分8−3と順調にリード。

ところが、実業団Jが試合の雰囲気になれ、まとまりはじめるとまったく追加点があげられなくなり、追いあげられた。

○……じわじわと点差を詰めた実業団Jは、長谷川の好リードから相手の2・4ディフェンスを、ポストプレーで切り崩し、後半8分9−9のタイスコア。

円光クも態勢を立てなおし一進一退となったが、実業団Jは残り10分を切ってから速攻を仕掛け、出足の鈍った円光守備陣を破り23分13−11、そのあと1点を返されたがあわてず4点をたたみかけて円光クを突き放した。

○……円光クでは権のシャープなプレーが目立ち、全員のもつボールへの執着心もみごとなものであった。（岡田重博）

	【全日本実業団J選抜】	得	【円光】	得
GK	牧原（本田技研鈴鹿）	0	龍	0
GK	大谷（神戸製鋼所）	0		
FP	長谷川（二和家具）	4	鄭	2
FP	前渕（大崎電気）	2	金（鍾）	3
FP	北村（大同製鋼）	0	金（章）	0
FP	矢野（本田技研鈴鹿）	3	金（弘）	1
FP	須藤（神戸製鋼所）	0	趙	0
FP	中本（大同製鋼）	0	崔（圭）	2
FP	守田（大同製鋼）	3	権	4
FP	坂口（大崎電気）	4	金（在）	0
FP	新田（大崎電気）	1		
FP	越智（日新製鋼呉）	0		
PT	（2）	17	（0）	12

〈PTはこれまでの7MT〉

▽交代選手【実】GK岩田（日本耐酸壜）、FP伊丹（二和家具）得0

円光ク、多彩な攻めで初勝利

第3戦・愛知実業団選抜との試合は21日午後6時から名古屋市体育館で行われた。審判＝稲石三二奥村方志、観衆＝約千五百

円光ク 24（13−6、11−9）15 愛知実業団選抜

後記　改田 智洋

○……実連の中堅クラスの選手に試合経験をつますため、ナショナル・プレイヤーを除いて、各チームからまんべんなく選手を選んだ

通算成績

①昭45. 11 愛媛ク遠征
～日本側 2勝3敗～

②昭47. 11
釜山旅客自動車来日
～日本側 5戦全勝～

③昭48. 11
全日本実連ジュニア遠征
～日本側 1勝1分3敗～

④昭50. 5
円光倶楽部来日
～日本側 4勝1敗～

愛知実業団選抜。

ところが「2日間しか合同練習をやらなかった」(横地団長)ためか、コンビネーションがとれていなかった。

このため、個人技に頼り、チームプレーがほとんどできなかったばかりか、攻守で凡ミスが出てしまった。そこを円光クにつかれたかっこう。

前半24分からPT1本を含む連続6失点。後半10分には早くも10点差。

点差は開く一方、とみた実業団選抜はやむなく、コーチ兼プレイヤーの野田(大同製鋼)を投入した。

これで、多少チームは引きしまり、一時は6点差まで追いあげたしかし、野田の技に他の選手がついていけない場面もあり、これがミスとなって、逆転するまでにはいたらなかった。

【愛知実連選抜】		得
GK	永井(タヨシ産業)	0
GK	倉谷(大同製鋼)	0
FP	曽根原(中部電力体)	0
FP	宮松(トヨタ車体)	5
FP	中村(トヨタ自工)	0
FP	加藤(トヨタ自工)	4
FP	飯田(パイロット)	1
FP	鮫島(新日鉄名古屋)	2
FP	千本(ブラザー工業)	0
FP	阿久根(新日鉄名古屋)	0
FP	坂部(豊田工機)	0
FP	更谷(大同製鋼高蔵)	3
計	PT (0)	15

【円光】		得
GK	龍	0
GK	崔(大)	0
FP	権	0
FP	鄭	4
FP	金(鍾)	7
FP	金(在)	4
FP	金(弘)	5
FP	趙	0
FP	崔(圭)	1
FP	金(章)	3
計	PT (2)	24

○……来日初勝利をものにした円光クは、スカイプレーを何度も試みたり、ローリングから真ん中を割ったり、さらにバックパスでポストに球を通すなど、多彩な攻めを見せたが、攻撃に今ひとつ決め手を欠いている感じだった。

(朝日新聞名古屋本社運動部)

円光ク来日選手団

団長	朴載録(40才)	円光大教授	
監督	安用局(40)	円光大同窓会役員	
コーチ	申吉洙(36)	円光大教授	
総務	徐康錫(36)	韓国協会技術委	
選手 GK	龍煥鱗(25才)	中学教師	173
	崔大鎬(29)	高校教師	171
FP	姜尚遠(32) ～兼マネジャー～	円光大職員	170
	裴恵文(28)	円光大職員	178
	崔圭千(28)	中学コーチ	168
	権五衡(26)	中学教師	167
	金弘植(26)	中学教師	177
	趙南信(25)	中学教師	168
	金在錫(22)	中学コーチ	169
	鄭鎮均(21)	円光大職員	181
	金鍾順(21)	中学コーチ	173
	金章燮(21)	円光大職員	174

・右欄数字は身長(cm)

全日本級は欠場　愛知実連選抜は藤中、中井らチャンピオン・大同製鋼の主力を抜かした陣容。

全日本級の妙技を期待して集ったファンは、ちょっと拍子ぬけだった。

神奈川実業団、逃げ切る

第4戦・神奈川実業団選抜との試合は、23日午後6時25分から横浜・平沼記念体育館で行われた。審判＝内田孝之、栗城紘一郎、観衆＝八百

神奈川実業団選抜 15 (8–4, 7–10) 14 円光ク

【神奈川実業団】		得
GK	佐藤(日進商会)	
GK	吉田(セ自動車)	
FP	北村(日本発条)	
FP	羽毛田(セ自動車)	
FP	笹本(日本鋼管)	
FP	小野口(日本発条)	
FP	吉沢(セ自動車)	
FP	伊沢(日本発条)	
FP	山田(日本鋼管)	
FP	穴沢(日本鋼管)	
FP	石塚(日本発条)	
FP	仲田(セ自動車)	
計	PT (3)	15

【円光】		得
GK	龍	0
GK	崔(大)	0
FP	権	3
FP	金(在)	4
FP	趙	1
FP	崔(圭)	1
FP	金(章)	1
FP	鄭	1
FP	金(鍾)	2
FP	金(弘)	1
FP	裴	0
計	PT (0)	14

〔PTはこれまでの7MT〕

○……序盤は完全に円光クのペース。1－1から8分金鍾順のカットインで先行、9、14分には金在錫がサイドから鋭いシュートを決めて4－1とした。

ところが、肝心のディフェンスに出足と当りがなかったため、神奈川の反撃をうけ、22分4－5と逆転され、そのあと2本のPTで主導権も奪われた。

波にのった神奈川は、後半も羽毛田の鮮やかなダイビングショットなどで加点、12分13－6と大差がついた。

円光クは、20分すぎから再び多彩な攻撃で、動きの落ちた神奈川を追いこみ、試合を盛りあげたが神奈川は、29分30秒15－14とされたあとのマイボールを慎重につないで逃げ切った。(杉山　茂)

円光ク、追撃及ばず

第5戦(最終戦)・全日本自衛隊選抜との試合は、24日午後3時17分から東京・駒沢体育館で行われた。審判＝安藤純光、佐野和夫、観衆＝六百

全日本自衛隊選抜 18 (10–8, 8–8) 16 円光ク

【自衛隊選抜】		得
GK	松岡(海上鹿屋)	0
GK	門(海上下総)	0
FP	藤枝(陸上勝田)	0
FP	平野(海上下総)	4
FP	中水流(海上鹿屋)	9
FP	下村(海上鹿屋)	1
FP	額賀(陸上勝田)	4
FP	金田(海上下総)	0
FP	宮本(海上下総)	0
計	PT (2)	18

【円光】		得
GK	龍	0
GK	崔(大)	0
FP	金(弘)	5
FP	権	2
FP	趙	1
FP	崔(圭)	0
FP	金(章)	0
FP	鄭	4
FP	金(鍾)	1
FP	金(在)	3
計	PT (1)	16

〔PTはこれまでの7MT〕

○……両チームとも決定的な力がなく、後半18分14－14となって予断を許さなかったが、自衛隊は19分、21分、平野(オリンピック候補)の好パスを受けた中水流のシュートで2点をあげ、粘る円光クを辛くもかわして、初の国際試合を飾った。

自衛隊は組織攻撃にただわりすぎて好機をつぶし、前半なかばから個人技主体の策に切り替え19分7－4、後半12分14－11と優位に立てた。

しかし、守りに粘りがなく帰陣も遅かったため、相手の反撃を許し苦戦を強いられた。

円光クも、せっかく同点に追いつきながらそのあとのプレーが雑で、立ちあがり先行した以外は、つねに後手にまわっていた。技巧的で爆発力があまり感じられない

自衛隊では額賀、GK松岡のプレーが光り、特に松岡の堅守が大きな勝因といえる。(杉山)

自衛隊、宿願の国際試合

□……ピックアップチームを組んで国際試合をするのは、自衛隊連盟関係者の夢の一つだった。

それだけに、この日は、選手よりも、富永理事長ら役員のほうが試合前から落ち着かなかった。

試合は二転三転の末、自衛隊が記念すべき〝初試合〟を飾ったがこれを機会に、全日本(ナショナルチーム)や、欧州チームとの交流も積極的に推しすすめたいと、なかなかのハナ息だった。

一方、円光クは「最終戦だけにどうしても勝ちたかった。大阪以外の試合は、自分たちにも勝機があったのに－」と残念がった。

全日本自衛隊

下総（海上）、勝田（陸上）降し栄冠

第7回全日本自衛隊選手権は5月21、22日の両日、東京駒沢第2球技場に24チームが参加して開かれた。

大会は、前年上位の7チームを除く17チームが4グループに分かれて予選ラウンドを戦い、勝者4チームとシードチームによる決勝トーナメントで選手権を争った。

その結果、前評判の高かった下総（海上、千葉）が、鹿屋（海上、鹿児島）、勝田（陸上、茨城）の強豪を連破して優勝を遂げた。第3術科校を名乗っていた第5回（昭48）についで2度目。海上勢は4連覇。

24日駒沢体育館で行われた女子は中央病院（陸・東京）新設の少年は少年工科学校（陸・神奈川）が勝った。

▼予選ラウンド・1回戦

▽C組

久里浜（陸・神奈川）13（4－3、9－6）9 富士学校（陸・静岡）

木更津一ヘリ（陸・千葉）11（6－6、5－4）10 熊谷二教（陸・東京）

（注）A、B、D組は1回戦なし

▽同2回戦

▽A組

古河（陸・茨城）11（5－4、6－5）9 神町（陸・山形）

霞ケ浦（陸・茨城）16（11－3、5－3）6 練馬通信（陸・東京）

▽B組

徳島教空群（海・徳島）不戦勝 厚木四空群（海・神奈川）

館山21空群（海・千葉）16（7－1、9－2）3 鹿屋教空群（海・鹿児島）

▽C組

久里浜 13（9－4、4－5）9 木更津一ヘリ

熊谷生徒（空・埼玉）不戦勝 峰岡山（空・千葉）

▽D組

北海道七師団（陸・北海道）13（4－2、9－8）10 東立川（陸・東京）

春日井（陸・愛知）16（9－4、7－2）6 朝霞（陸・埼玉）

▽同3回戦（＝決勝トーナメント進出チーム決定戦）

▽A組

古河 18（9－4、9－7）11 霞ケ浦

▽B組

徳島教空群 15（8－3、7－5）8 館山21空群

▽C組

久里浜 16（9－3、7－4）7 熊谷生徒

▽D組

春日井 15（7－4、8－8）12 北海道七師団

決勝トーナメント

▽1回戦

三宿中央病院X線（陸・東京）17（6－4、11－5）9 古河

八戸二航群（海・青森）14（5－6、9－3）9 徳島教空群

勝田施設学校（陸・茨城）18（7－9、11－5）14 久里浜

下志津（陸・千葉）14（6－5、8－4）9 春日井

相馬原（陸・群馬）×宇都宮（陸・栃木）は両チーム棄権で不成立

○……やはりシードチームが強かった。

予選ラウンドからの進出者は連戦のハンデもあったが、試合展開力で一歩をゆずり、いずれも涙をのんだ。

古河、徳島、久里浜などが、前半せっかくリードを奪いながら持ちこたえられないのも、わずかな乱れから、相手にペースを握られてしまう点に原因があった。

下志津、後半に崩れる

▽2回戦（＝準々決勝）

鹿屋一空群（海・鹿児島）24（14－6、10－8）14 三宿中央病院X線

下総（海・千葉）17（8－4、9－6）10 八戸二航群

勝田（陸・茨城）23（7－8、16－3）11 下志津

（注）勝田施設学校は相手棄権による不戦勝。

○……“3強”が安定した力をみせた。

前半、下志津の健闘にあってリードを奪われた勝田（前回2位）も後半になると、矢次早やにゴールをあげて、最後は圧勝だった。

鹿屋（前回1位）も元気いっぱいの攻守で三宿を押しのけ、下総は昨年苦戦している相手だけに、慎重なスタートだったが、しだいに地力の差があらわれ、危気なく勝ちあがった。

鹿屋“2連覇”成らず

▽準決勝

下総 13（6－1、7－3）4 鹿屋一空群

【鹿屋】	得		【下総】	得
松岡	0	GK	門	0
下村	0	FP	奥原	2
山下	1		保坂	1
埒	1		今村	2
中水流	2		横山	0
伊藤	0		木村	0
鈴木	0		宮本	0
瀬田	0		金田	0
水野	0		平野	5
稲尾	0		工藤	0
			中一	2
	4			13

（審・小林、福元）

○……動きの探りあいから5分す

ぎ下総は平野（オリンピック候補）のゴールで口火を切り、7分奥原の追加点で先行した。

鹿屋も9分山下が返して緊迫したが、相手の切り札・平野に対するマークが徹底せず、10、13分に得点を許し、苦しい展開となった。

下総は、リードした余裕もあって、ディフェンスの動きがよく、前半15分すぎから、完全に試合のペースを握り、後半もほとんど一方的に攻めこんで9分9－1と差を開いた。

鹿屋は、前年優勝時のメンバーから中一が相手側へ移ったほかはほとんど同じだったが、鋭さにかけ、よいところなく連覇の夢がついえた。

勝田 30（14－5、16－6）11 勝田施設学校

【勝田】	得		【施学】	得
渡辺	0	GK	平池	0
関島	0	GK		
宮川	3	FP	平山	4
小松	3	FP	田村	1
大坂間	8	FP	関	1
藤枝	2	FP	福井	5
増田	2	FP	富永	0
田山	2	FP	三村	0
額賀	4	FP	小沢	0
福山	3	FP		
野高	3	FP		
	30	（審・佐々木、得丸）		11

○……同門同士。施設学校は勝田OBともいえる陣容で、一方的な試合になるかとみえたが、スタートは施設学校が2－0とリードすぐ取り返されたものの、10分4－6と粘り、接戦模様だった。

しかし、10分をすぎると、さすがに体力の差がはっきりしだし、勝田は額賀、野高、大坂間らがスピード豊かに切りこんで、本来自チームの監督である相手GK平池に休むヒマを与えなかった。

後半も同じような展開、10分22－7と大差がついてしまった。

下総、先行の利活かす

▽決勝

下総 17（9－7、8－4）11 勝田

【下総】	得		【勝田】	得
門	0	GK	渡辺	0
		GK	関島	0
奥原	7	FP	宮川	0
保坂	0	FP	小松	3
今村	0	FP	大坂間	1
横山	0	FP	藤枝	1
木村	0	FP	増田	1
宮本	0	FP	田山	1
金田	1	FP	額賀	4
平野	6	FP	福山	0
工藤	0	FP	野高	0
中一	3	FP		
	17（1）	PT（審・藤井、福元）		（0）11

（PTはこれまでの7MT）

○……第5回（昭48）以来2度目の優勝争い。この時は延長の末、下総（第3術科校）が勝っており、勝田にしてみれば、どうしても〃借り〃を返したいところ。

その気負いをかわすように下総は立ち上り2分平野、4分奥原であっさり先行した。

勝田も8分金田のゴールでリズムが整い、11分3－3と決勝にふさわしいせりあいを見せた。

○……下総は13、20分奥原の巧技で再び優位に立ち、さらにハーフタイム前3点をたたみかけ、試合の主導権を完全に握ったかとみえた。

ところが、後半に入ると攻撃が単調となり、勝田守備陣につかまって8分1点を加えただけ。小松、大坂間ら勝田の激しい反撃をうけ、14分には9－8まで追いあげられた。

○……勝田がここでもう一押しあれば面白かったのだが、動きが鈍り、そこを下総・中一の俊敏なプレーに襲われて傷口を拡げてしまった。

余裕を取りもどした下総は21分13－11から4点をもぎとり、勝田をねじふせた。

女子は中央病院勝つ

5回目を迎えた女子の部は3チームが参加、リーグ戦で行われ、志賀、山川、渡辺らの秀れた攻撃力をもつ中央病院（陸・東京）が2勝、初優勝を遂げた。

中央病院（陸・東京） 5（3－2、2－2）4 朝霞ワック（陸・埼玉）

朝霞ワック 14（6－1、8－0）1 高等看護学院（陸・東京）

中央病院 14（9－0、5－1）1 高等看護病院

【順位】①中央病院②朝霞ワック③高等看護病院

「少年」は 今年から新設された

工科校 少年の部は、3チームが参加、他の2チームより年長で、攻守のバランスがとれた武山少年工科学校（陸・神奈川）が初の勝者となった。

▽1回戦

熊谷航空生徒隊（空・埼玉） 13（7－2、6－5）7 武山生徒隊（陸・神奈川）

武山少年工科学校（陸・神奈川） 不戦勝 勝田施設生徒隊（陸・茨城）

▽決勝

武山少年工科学校 26（12－4、14－1）5 熊谷航空生徒隊

再考要す強行日程

□……7年目を迎えた自衛隊大会大会運営などもどうにかスムーズになったが2日間で一気にスケジュールを消化するのは、いかに体力に自信があるといっても、内容的にマイナス面が生じ考えものだ。

予選ラウンドから出場のチームは、決勝トーナメントに入って息切れし、ベストコンディションならば、上位進出を果せそうなチームも退かざるを得なかった。来年への課題だろう。

□……女子の部は参加チームこそ少ないが、すっかり定着した感じ選手たちの張りきりかたもなかなかだ。

選抜チームを組んで実業団のBグループ（会長杯大会）出場の動きもあり、いっそう活気がでそう

新登場の少年も若さにあふれた熱戦で、連盟役員を喜ばせた。自衛隊内各層へのハンドボール普及を物語るものだった。

有力80チームの新戦力アンケート

オリンピックの前年。国内各分野はいつにもまして活気が感じられる。

本誌恒例の新陣容アンケート。有力と目される120チーム（選・編集委員会）のうち、回答が寄せられた78チームを紹介しよう。

なお、日本実業団リーグに参加している男女各8チームは、本誌前号18頁を参照されたい。高校、高専は前年1位校のみ。

◎男子

（ABC順）

上段は今シーズンの主力メンバー。KはGK、FはFP

数字は身長（cm）。

氏名左の◎印はナショナルプレイヤー。

下段は新人選手。（　）内は出身校または旧所属。

ブリヂストン・タイヤ（福岡）

K大島 171
F大力 173
仲 175
川野 178
手島 168
高田 171
轟 160

中島（久留米工）
秋吉（久留米工）
原嶋（久留米工）
小柳（九産大付）

セントラル自動車（神奈川）

K吉田 176
F羽毛田 170
加藤 175
吉沢 178
仲田 165
川原 174

吉田（芝浦工大）
大山（石川高）
福田（大曲農高）
根本（函館有斗高）
高木（高岡商高）

中京大（愛知・東海学連）

K横山 172
F布垣 174
佐藤 172
岸見 184
三宅 176
村上 175
北田 173

福井（鹿町工高）
林（豊橋商高）
原（名城付高）
駒田（愛知高）
宮川（長坂高）
正井（明石北高）
川村（八重山高）

千葉教員（千葉）

K林 168
F笠原 166
氷海 180
松 176
佐藤 168
浅原 166
上坂 180

篠塚（茨城大）
内記（東京学芸大）

大同製鋼高蔵（愛知・新設チーム）

石川
更谷
桐山
小野
原田
（以上前年度大同製鋼所属）
大園（有明工高）
桑幡（栗野工高）
吉成（馬頭高）
徳丸（財部高）
針塚（沖縄工高）
溝部（早鞆高）
延島（南葛飾高）
与那嶺（興南高）
馬渡（有明工高）
鈴木（紋別高）
野村（前橋工）
林（大矢野高）
山本（大分電波高）

福井大（福井・北信越学連）

K瀬尾 176
F黒田 180
山口 167
源野 176
吉村 166
向井 180
内田 175

和気（倉敷青陵高）
北村（箕面高）

福島SGクラブ（福島）

K石井健 176
F真田 168
武田 172
石森 177
渡辺 173
遠藤 180
西坂 176

中畑（北海道大）
西坂（聖光工高）
菅野（聖光工高）
石井憲（聖光工高）

函館有斗クラブ（北海道）

K沢谷 178
F大橋 180
佐藤 180
三浦 182
前 175
大隅 176
福井 172

大隅（日大）
宮谷（有斗高）

氷見クラブ（富山）

K中山 173
F高橋 172
浦野 171
石山 165
海下 167
森 172
解田 167

石山（氷見高）
殿畑（氷見高）

広島修道大（広島・九州学連）

K木村 178
F綿平 167
森岡 172
佐々木 174
迫 175
山本 179
山中 180

川地（呉宮原高）
岡島（国泰寺高）
林（岩国高）
三分一（岩国高）

北海道大（北海道・北海道学連）

K苅谷 184
F叶井 168
桜井 171
高橋 178
西野 173
奥村 170
安藤 174

神山（国立高）
花輪（旭川東高）
海野（札幌南高）
尾尻（札幌南高）
柿崎（札幌南高）
芝野（札幌南高）
前滝（三国丘高）
須賀（浦和西高）
杉沢（創価高）
渡辺（松山北高）

自衛隊勝田（茨城）

K渡部 174
F田山 187
藤枝 181
高岡 178
増田 176
額賀 165
野高 165

宮川（水海道一高）

金沢工業大（石川・北信越学連）

K酒谷 182
F中村 172
野村 174
亀田 178
原子 179
作田 161
清水 174

木山（敦賀工高）
高田（津幡高）
城山（松陵工高）
吉田（金沢市立工）

金沢市役所（石川）

K竹中 181
F北野 178
水野 169
石野 174
瀬藤 164
金森 172
八日市屋 182
（橋本 175）

橋本（大阪経大）
中村（小松工高）

川崎重工（兵庫）

K山　本　174
F小　田　176
大　山　178
守　屋　171
那須野　172
鳴　川　165
坂　部　183

なし

海上自衛隊下総（千葉）

K　門　178
F奥　原　170
保　坂　168
◎平　野　180
今　村　172
中　一　170
横　山　174

なし

甘楽クラブ（群馬）

K小　出　175
F佐　俣　175
加　藤　183
清　水　168
田　村　163
岩　井　162
田　中　167

黒　沢（甘楽農高）

近畿大（大阪・関西学連）

K岡　本　177
F西　辻　182
夏　原　173
政　香　160
浜　本　174
長谷川　170
島　川　181

岩　田（新田高）
高　橋（浪商高）
炭　（比花学院）
峰　本（大阪商高）

京都信用金庫（京都）

K梅　景　162
F三　上　163
岩　成　172
南　170
福井俊　171
福井徹　175
田　中　179

なし

熊本トヨタ自動車（熊本）

K与　縄　170
F　泰　173
毛　利　173
坂　田　177
鶴　島　161
永　田　170
松　崎　165

竹　下（久留米工短大）
中　島（久留米工短大）
続　（大津高）
山　下（熊本一工高）

熊本商科大（熊本・九州学連）

K小　川　175
F三　村　170
稲　岡　165
安　達　161
東　浜　177
西　168
本　山　172

小　山（熊本市商）
佐　藤（九州学院）
野　尻（九州学院）
谷　口（九州学院）
南　（東海第二高）

久留米工高（福岡・前年度全日本高校選手権優勝校）

K矢　永　176
F長　野　182
赤　司　187
安　田　175
田中良朗　173
横　溝　163
原　田　178

檜　原（北野中）
草　嶋（明星中）
原　（城南中）
大　城（屏水中）
田中良一（筑後中）

慶応義塾大（東京・関東学連）

K米　内　172
F川　崎　174
福　地　172
木　村　172
浅　野　182
西　村　171
勝　地　175

草　皆
野　本
茂　木
保　坂
渡　辺
清　水
尾　関
（いずれも慶応高）

高知県教職員（高知）

K隅　田　172
F酒　井　180
細　木　180
高　野　169
石　川　170
西　山　171
小　原　174

北　氏（中京大）
多　田（国士館大）

甲南大（兵庫・関西学連）

K藤　岡　175
F伊　藤　168
石　橋　180
緒　方　165
高　橋　165
沢　田　165
古　谷　180

阿　武（清風高）
原　田（北淀高）
久　森（追手門高）
橋　本（箕面高）

神戸製鋼所（兵庫）

K大　谷　180
F角　谷　172
笹　野　172
若　本　172
田　中　168
江　口　172
柴　田　165

山　本（初芝高）
河　内（初芝高）
藤　谷（武庫工高）
山　崎（県兵庫工高）
山　口（村野工高）

丸善石油下津（和歌山）

K海　端　176
F中　崎　180
松　本　178
刀　祢　177
北　畑　177
加　古　176
松　川　172

善　岡（岩国工高）
谷　口（和歌山工高）

三春台クラブ（神奈川）

K井　上　172
F尾　島　170
大　山　180
植木一　178
馬　渕　180
松　村　169
植木英　179

植木英（中大）
布　施（関東学院大）

三菱油化（三重）

K野　呂　170
F栗　山　172
田　島　178
市　川　171
鈴　木　170
牛　場　174
堀　178

宇佐美（四日市商高）
堀　（四日市工高）
渡　辺（中央工高）

三井石油化学千葉（千葉）

K家　本　173
F田　中　174
高　重　165
河　村　167
村　井　168
相　田　165
中　村　175

家　本（岩国工高）
村　井（岩国工高）
中　村（岩国工高）
相　田（鶴舞高）
渡　辺（鶴舞高）

明治大（東京・関東学連）

K岡　部　182
F山　根　170
石　井　175
江　幡　178
松　本　172
加　納　170
辻　175

辻　（加治木高）
山　本（小杉高）

日本体育大（東京・関東学連）

K◎斉藤将　186
F菅　野　179
坂　本　176
◎斉藤幸　174
大　房　171
後　川　179
半　田　177

阿　部（湯沢高）
工　藤（鈴蘭台高）
原　野（三国丘高）
船　木（都城泉丘高）
前　田（三本松高）

日本発条横浜（神奈川）

K清　水　180
F北　村　175
小野口　170
福　田　170
伊　沢　176
石　塚　174
井　上　183

守　田（下松工高）
奥　秋（大月短大付属高）

日本合成ゴム四日市（三重）

K後藤秀　180
F鈴　木　175
位　田　170
松　永　180
山　村　178
荻　原　165
渡　部　160
（後藤浩　165）

永治（加治木工高）
小　林（菰野高）

日本原子力研究所（茨城）

K佐　藤　175
F菊　地　170
秋　山　172
川　上　165
清　水　175
砂　押　170
安　達　173

黒　沢（那珂湊水産高）

岡山大（岡山、中四国学連）

K富　岡　181
F橋　本　168
白　川　173
本　浄　170
岡　田　168
三　宅　168
篠　原　165

浅　野（邑久高）

岡山教員（岡山）

K藤　原　175
F小　林　170
片　山　173
森　安　170
瀬　島　176
船　越　170
金　子　168

小　林（岡山大）
片　山（京都教大）

大阪イーグルス（大阪）

K◎本田　178
F福　井　173
高　橋　160
池　本　172
安　達　170
足　羽　178
市　田　160

なし

大阪体育大（大阪・関西学連）

K藤井　173
F根本　177
矢辺　170
平谷　178
池本　174
池田　172
野中　170

倉本（添上高）
丸山（添上高）
志賀（泉北高）
北道（大阪商高）
川谷（摂津高）
芝野（上宮高）
松井（伏見工高）
小林（尼崎小田高）
藤井（浪商高）
吉田（浪商高）

大阪ガス（大阪）

K梶原　175
F小西　172
藤田　170
藤井　172
竹内　171
柊　170
村上　174

中田（和歌山大）
丸山（栗野工高）
前田，門口
竹内，土田
中岡，福良
溝江，原　　いずれも大阪瓦斯高
川田（天草工高）

大山商会（大阪）

K川原　181
F奥川　175
前島　178
伊藤　178
越智　170
山口　171
根木　180
（川村　182）

福井（添上高）
増田（添上高）
知念（箕面学園）
岡田（佐野工高）

佐賀県教員ク（佐賀）

K藤井　173
F鶴丸　175
土井　170
野田　169
松尾　170
井上　171
柳本　170

吉田（日体大）
久保田（大阪体大）
小松（熊本商大）
白木（福岡大）
柴田（佐賀大）

境港市役所（鳥取）

K松本吉　182
F松本正　183
宮辺　175
門永　175
里　172
松本理　167
二瀬　161

なし

七戸ユニオン（青森）

K中野渡　172
F和田　178
石倉　168
高田　172
蛯名　170
岡山　168
河野　165

田高（七戸高）
畑山（十和田工高）

静岡県教員団（静岡）

K山口　176
F寺田　174
杉山　175
小林　169
入山　172
竹内　170
矢吹　172

白柳（大阪体大／元・三陽商会）

住友化学菊本（愛媛）

K福田　178
F原　168
城賀本　175
藤田　183
金剛　181
伊藤　166
塩崎　178

福田（新居浜工高）
塩崎（新居浜工高）

仙台大（宮城・東北学連）

K遠藤　175
F千代谷　175
下村　170
中西　170
徳能　175
吉田　170
早坂　175

谷口（赤平西高）
鎌田（男鹿高）
尾張（室蘭清水丘高）
佐藤（石巻工高）
橋本（置賜農高）
菊池（滝川高）

東京重機工業（東京）

K衣笠　173
F印野　175
雨宮　165
奥山　165
青木　168
牛木　172
荒井　173

千葉（甲府工高）

武田薬品工業光（山口）

K清水　167
F長棟　165
和田　184
仁科　172
末長　173
吉田　173
三宮　164

中原（岩国工高）

トヨタ車体（愛知）

K遠山　173
F山口　175
宮松　174
松本　172
横尾　178
高橋　168
山田　169

近藤（岡崎工高）
橋爪（刈谷工高）
黒木（高山西高）
林田（鹿島実業高）
矢野（九学院大付高）
上原（沖縄水産高）

東北学院大（宮城・東北学連）

K熊谷　180
F菊池　174
若生　175
鈴木　183
千葉　181
佐藤芳　170
佐々木　176

木村（弘前南高）
牛坂（古川工高）
末（盛岡商高）
桜篤（東北高）
佐藤篤（電子工高）
沼倉（電子工高）
遠藤（仙台商高）
工藤（仙台商高）

宇部工業高専（山口・前年度全日本高専選手権優勝校）

K白井　174
F荒川　170
重広　168
高杉　166
林　173
戎崎　178
大西　177

日田（安岡中）
高橋（安岡中）
三次（小野田中）
下野（山の田中）
大野（南桑中）
高嶋（南桑中）
片山（南桑中）
北島（小野田中）
下田（山の田中）
西村（西岐波中）
結城（神原中）

山口大（山口・中四国学連）

K広瀬　172
F浜田　184
藤嶋　174
宮崎　168
新見　176
長田　180
安部　174

津幡（門司高）
二本松（小倉西高）
岡田（三次高）
森宗（岩国高）
羽広（豊津高）
松浦（萩高）
福田（岩国高）
長谷川
川島
古賀

〆切り後到着分（順不同）

男・京都産業大（京都、関西学連）

K日比　173
F天本　176
富田　168
生駒　183
藤本　175

林（大垣農）
田中（桃山学院）

男・三重教員（三重）

K神谷　171
F川畑　171
宇尾野　170
夏目　180
山内　178
松ケ谷　173
坂本　173

川畑（早大）
宇尾野（大阪体大）
山内（大阪体大）

男・大阪経済大（大阪・関西学連）

K木村　176
F太田　170
石井　175
塩川　177
林　170
山本　175
田安　170

山野（東住吉工）
川本（添上高）
田中（嵯峨野高）
加戸（鈴蘭台高）
山田（花園高）

男・丸善石油松山（愛媛）

K塩田　172
F石川　174
篠原　179
泉　174
神野　167
木村　167
岡部　165

伊藤（新居浜工）
藤本（坂出工）

男・名城大（愛知・東海学連）

K杉浦　164
F山本　176
杉山　171
岩田　160
荒駒　164
高橋　168
鈴木康　177

安藤（名城付高）
宮地（名城付高）
鈴木輝（市岐阜商）
瀬島（三本松高）
江崎（名南工高）
鈴木康（名城付高／三陽商会）

男・瀬戸クラブ（香川）

K白井　172
F荒井　170
植中　164
山岡　171
原田　175
十川実　176
吉原　176

江口（中京大）
十川宏（三本松高）
太田
加茂
木岡
川田　　いずれも高松工芸高

男・九州産業大（福岡・九州学連）

K松高　175
F中馬　180
磯口　178
青柳　175
柳井　181
満重　169
金谷　174

小林（小倉工）
坂本（岩国工）
松田（日南工）
森山（松江農林）
村木（徳山工）

女・日本体育大（東京・関東学連）

K長谷川　163
F藤山　162
木元　164
小田　159
寺尾淳　159
林　162
岩本　162

新原（山陽女高）
梅本（日川高）
坂村（清水市商）
佐藤（水海道二）
源（熊本市高）
中原（都城泉丘）
細野（盛岡二高）

◉女子（ABC順）

中京女子大（愛知・東海学連）

K 森下 158
F 加納 160
中根 159
窪田 157
久家 153
小出 159
立川 152

太田（椙山女学園）
八木（成章高）
青木（上市高）
橋本（松永高）
三原（緑ケ丘女商高）
山口（敦賀高）
村松（田口高）

大和銀行（大阪）

K 村井 164
F 倉 157
東納 162
田守 159
岡村 160
松田 162
本田 160
（清水 152）

岡村（門前高）
清水（住吉学園高）
原川（島原農高）
本田（国分実業高）
松田（愛泉高）
村井（守山女高）

伏原紡織（愛知）

K 駒村 159
F 末光 158
一政 155
平田 155
島田 162
深見 158
杜 157

堀田（向陽台高）
薗田（時津中）
伊東（南中）

福岡教育大（福岡・九州学連）

K 広田 164
F 永見 152
谷川 161
足達 152
永島 161
下川 158
安田 154

安部（香椎高）
竹之山（大宮高）
小川（大宮高）
川道（長崎北高）

京都クラブ（京都）

K 橋本 155
F 福田 157
木村正 165
岩本 161
森 159
木村好 155
山本 167

岩本（日体大）
木村好（明徳商高）
山本（大阪体大）
橋本（明徳商高）
木村正（元日立栃木）

武庫川女子大（兵庫・関西学連）

K 田村 161
F 辻 155
三輪 163
谷本 158
沢田 163
岩井 163
佐野 158

六車（三本松高）
福島（津女子高）
谷（粉河高）
恒川（高蔵高）

日本女子体育大（東京・関東学連）

K 田草川 166
F 渡辺 152
前島 164
鈴木 168
高野 160
炭谷 153
川野 153

菅谷（沼津女高）
村沢（高浜高）
遠藤（進徳女高）
藤本（北多摩高）
後藤（釧路湖陵高）
佐藤（群馬女短大付高）
奥富（小平高）
山本（三宅高）
三沢（桜水高）
赤嶺（南部高）

寝屋川クラブ（大阪）

K 細見 160
F 畑中 158
太田 150
津熊 155
岩本 163
堂本 164
北村 165

名賀（東京教大）
谷垣（京都教大）
榎本（武庫川女大）
寺田（関大）
秦（寝屋川高）

大阪体育大（大阪・関西学連）

K 梅谷 161
（堀川 166）
F 奥野 161
高市 163
金森 165

加藤（岐阜商高）
大竹（浜松南高）
藤井（坂出高）
野村（洛東高）
宮村（亀山高）
清水（野田高）

大谷高（大阪・前年度全日本高校選手権優勝校）

K 岡田 162
F 今井 157
渡辺 152
横山 159
松井 163
辰巳 158
浜野 154

佐野
上永吉
池渕
伊藤
山下
杉永
（いずれも大谷中）

佐賀女子クラブ（佐賀）

K 中村 160
F 岸川 161
宮地 158
平石 162
緒方 158
片江 162
実松 156

馬場崎（神埼農高）
香月（神埼農高）
宮地（神埼農高）
荒木（神埼農高）
坂井（佐賀女高）

豊田工機（愛知）

K 山本 163
F 近藤久 156
新実 153
黒柳 153
浜口 153
中村 160
近藤幸 158

中村（岩津高）
山本（岩津高）
近藤民（岩津高）
近藤幸（安城学園高）
石川（安城学園高）
榊原（安城学園高）

徳山クラブ（旧称・徳山高校OG、山口）

K 広林 163
F 川口 161
山本 160
伊藤 166
松井 159
深見 160
白井 153

伊藤（徳山高）
松井（徳山高）
浜田（徳山高）
岩崎（徳山高）
古木（徳山高）

東京教育大（東京・関東学連）

K 坂梨 161
F 白鳥 162
土屋 157
吉本 151
中島 163
西山 157
坂本 165

森戸（栃木女高）
金長（水海道二高）
南出（天王寺高）
岩内（井草高）

東京女子体育大（東京・関東学連）

K 鍋田 160
F 赤岸 153
篠倉 169
高橋 159
橋 158
寺田 163
西峯 160

西峯（広島一女商）
山口（神埼農高）
大隅（神埼農高）
古賀（佐世保商高）
秦（新居浜商高）
小沢（明徳高）
野田（明石高）
横田（石川高）
小野（石川高）
西田（進徳女高）

東京学芸大（東京・関東学連）

K 高橋 163
F 永沢 155
奈倉 160
星野 161
山田 155
安藤 154
斉藤 157

山口大（山口・中四国学連）

K 矢野 160
F 宮崎 162
藤原 156
平岡 162
秋村 157
森田 155
高木 159

石丸（徳山高）

★……アンケート未着のチームもありますが、この企画は今号で打ち切らせていただきます。（編集委）

日本協会審判部中央研修会・報告

昭和49年度「日本協会審判部中央研修会」は3月8、9日の両日東京代々木の日本青少年総合センターで開かれた。

全国都道府県協会審判部長（代表者）、全国連盟審判部長あわせて47名（欠席は4協会、1連盟）と日本協会審判部委員、各ブロック審判部長、それに、日本協会審判審査委員嶋田新太郎、藤田八郎両氏など総勢52名が参加、多範囲にわたって熱心な研修がつづけられた。

以下は、その概要報告である。

（安藤純光）

◇

〔昭和50年度競技規則改正にともなう主要注意点〕

(1) ボールが競技場の上の施設にふれた時の処置は、旧ルールではボールの落下地点によって判定したが、新ルールでは「15の1(B)」によって、ボールが競技場の上の施設もしくは器具に触れた時にはレフェリースローとなる。

(2) スローインとコーナースローの時に防御側はゴールエリアラインにそって立つことができる。

各スローの時、防禦側のプレイヤーは少なくとも3m離れていなければならないが、コーナースローあるいはコーナーに近い地点で行なわれるスローインの時には「10の4」及び「11の2」によってゴールエリアラインにそって位置することができる。

(3) フリースローの位置の求めかた。ゴールの正面(3m)の範囲の場合には、反則のあった点を通るサイドラインに平行な線の延長線上のフリースローラインの外からこの他の地点で反則があった場合には、その地点とそれぞれの側のゴールポストの内側の後の角（かど）とを結ぶ延長線上のフリースローラインの外側から行う。（「13の2・第9図」及び「競技に関する留意事項3〃フリースロー〃について」参照）

(4) 退場・追放・失格について。

退場には2分と5分がある。同系列の2回目の退場は5分間である。さらに3回目に退場させられたプレイヤーは5分間の追放となる。と同時にこのプレイヤーは失格となりベンチにいることもできない。チームは11名となり、5分間の追放時間を終了すればチームは競技場のプレイヤーを1名補充し、7名でプレーすることができる。

追放されたプレイヤーは失格となり、チームは11名で競技を続行しなければならないが、5分後に競技場のプレイヤーを補充することができる（「17の6」及び「17の20」）

(5) ストーリングについて。僅少差でリードしている時またはより少ない点差でゲームを終ろう（負ける）とする時など、ボールを所有しながら攻撃の意図が見られない場合には、ストーリングを判定する。ストーリングを判定した場合には、その時ボールのあった位置からのフリースローで競技が再開される（「17の21」）

(6) 競技の進行を故障に遅らせるプレイヤーについて。ボールを持っているプレイヤーが反則をとられてそのボールを下に置かず、時間をかせぐ意味で他の場所に投げるなど、これに類する行為があった場合には、ストーリングではなく、スポーツマンシップに反する行為として判定する。

(7) 勝敗の決定方法について。これまでの第1延長戦あるいは第2延長戦の後、抽せん(トス)による方法の他に、第1延長戦あるいは第2延長戦の後、ペナルティスローによる方法を加えた。

ペナルティスローによって勝敗を決定しようとする場合には、競技開始前に実施の方法（人数・順序・ゴール・なお同点の場合の結着法）について充分打ち合せ、徹底しておくことが必要である。

(8) 用語改正。

・7メートルスローをペナルティスローに。

・キーパーボールをキーパースローに。

・記録係をスコアラーに。

・7メートルラインをペナルティスローラインに、それぞれ改正。

〔新競技規則及び判定・その他全般にわたっての質疑応答〕

質問① 公認審判員規定の「6の二に「各級公認審判員は年1回講習会あるいは研修会に出席していなければならない」とあるが、この研修会、講習会とは同規定「15」にあるものでよいのか、A、B級についても同じか。

答 この研修会、講習会は日本協会が主催するものだけを指しているのではない。日本協会、ブロック審判部、都道府県協会が主催するすべての研修会、講習会に年1回以上出席する義務がある。A、B級についても同様である。

質問② ゴールエリアの中にあるペナルティスローラインから3mの地点に引かれる15cmのマークに名称がないが。

答 IHFの規則書にもない。今回はそのままにしたが、次回までには研究して適当な名称をつけたい。

質問③ 「旧16の1」には（原注）ボールは1人のプレイヤーが保持する、とあったが、新規則書にはない。2人で持つことができるのか。

答 「16の1の(原注)はなくなっているが改正されたわけではない。「審判に関する留意事項のⅡ」「競技に関する留意事項の3〃フリースロー〃について(4)」を参照されたい。

質問④ 最近サイドでブロックしている攻撃側プレイヤーがゴールライン側にいるプレイヤーを防御するプレーが多い。しかも、この時ゴールエリアに入って防御しているがこの時の判定は。

答 ゴールエリアラインに入って防御した場合にはペナルティスローである。

ゴールエリアに入って防御した、とはシュートしようとしているプレーに対してゴールエリアに入って防御することを云う

質問⑤ 防御側が前項のような時、攻撃側はシュートせずパスをしたが、反則をとらなくてもよいか。

答　少なくともラインクロスの反則は判定すべきである。反則を判定することによって攻撃側が不利になる場合には反則としないほうがよいが、この場合サイドまでボールは来ているので、フリースローを判定しても攻撃側に不利になるとは考えられない。そのために攻撃側がシュートしたが、できなかったならばペナルティスローを判定すべきである。

質問⑥　「16の8」の(原注)に「レフェリーが笛を吹いたあとでは罰することはない」とあるが、さらに近づいた場合にも罰することはできないか。

答　各スローの場合には相手側は3mはなれていなければならないのが原則であり、レフェリーはこれを監察しなければならない。

しかし、実際には3mはなれていなくても早くプレーを再開することがよいと判断し、スローの笛を吹くケースがある(相手側が3mはなれたものとして……)。この場合には、攻防両者ともスローが行なわれてしまえばプレーを続けることができるし罰せられることはない。

しかし、同じ場合で、相手側(防御側)のプレイヤーがスローが行なわれる前に、さらに近づけば罰せられなければならない

質問⑦　レフェリーの靴は黒色でなければいけないか。プレイヤーが〃はだし〃でプレーすることはどうか。

答　これまでレフェリーは服装だけではなく靴まで黒ということにしていたが、今回の改正から靴については規定しないことにした。したがって何色でもよい

〃はだし〃でプレーすることについては、規則書にはないができない(許されない)ことになっている。

全日本大会審判員の選出及び決定に関する申合せ事項

全日本大会審判員の選出及び決定については、日本ハンドボール協会審判部が下記の事項によって行なう。

(1・選出及び決定の時期)

毎年度末の日本協会審判部合同会議(以下合同会議という)において、次年度の全日本大会審判員を決定する。

(2・候補者名簿の提出)

各ブロック審判部長は、各ブロック審判部会議の慎重な審議を経て推薦された全日本大会審判員候補者名簿を(1)の合同会議に提出する。

(3・選出の原則)

(A)当該大会の開催都道府県の所属するブロックを中心に、その隣接ブロックの範囲内において審判団を構成する。

(B)右記(A)によって審判団の構成が不可能な場合には、さらに範囲を拡大するが、その際にも開催地に近い都道府県から選出する。

(注)右記(A及びB)を原則とするが、各全国連盟が主催する大会については、当該連盟の要請を充分に考慮する。

(4・決定の方法)

右記(2)によって提出された名簿を資料として、(3)の原則にしたがって合同会議において決定する。

(5・全日本総合選手権大会審判員の選出及び決定)

国際審判員は全日本総合選手権大会の審判員になることが義務づけられる。この他に合同会議において候補者若干名を推薦し、この中から審査委員会が決定する。

(6・各大会審判長)

日本協会が主催し、共催する全国連盟のない大会(例えば国民体育大会、全日本総合選手権、NHK杯大会など)においては日本協会審判部長が審判長となる。

(7・各大会副審判長)

各大会を通じて原則として大会開催ブロック審判部長が副審判長となる。

(8・変更)

決定後審判員に変更のあった場合には、当該大会開催ブロック審判部長、当該大会主催全国連盟審判部長、日本協会審判部長の三者が協議して変更及び補充する。

審判長、副審判長については右記(6)(7)に欠員あるいは変更の必要がある場合には審判員を決定する合同会議において審議し、決定後の事故による欠員は補充しない(審判長、副審判長がともに欠員となる場合は別途審議する。)

若い審判員養成が急務

このほか、今回の研修会で、審判部各委員会の分掌事項が確認され、「全日本大会審判員の選出及び決定に関する申合せ事項」も、別掲のように成文化された。レフェリー・ソサイエティの組織化にさらに大きな前進が遂げられたことになる。

また、日本協会審判部の将来構想として、若いレフェリーの養成に力を注ぐことが熱望され、少なくとも30才前後で国際審判員に推薦できるような技術、能力をもつ人材の育成が急務であるとされた

公認スコアラー制度の研究や、これまでにも再三強調されている「審判と技術のセクション分離」「レフェリー専従者の育成」も引きつづき、推進することにまとまった。

「レフェリーのありかた」については、次の6点を特に確認しあった。

(1) 警告の場合スコアラー(オフィシャル)のみに知らせるのではなく、本人にも徹底すること。

(2) 退場について。前に警告がないと退場させることができないかのような判定がある。退場になるべき反則に対しては、警告の有無にかかわらず課すべきである。

(3) アドバンテージについて。原則としてシュートの時にのみ見ることになっている。また、次の展開が有利と判断した時に採用するのであって、次の展開が予測できない時にはアドバンテージを見ないで笛を吹く。

(4) ストーリングについて。ストーリングの判定は難しさがあるが新競技規則では判定しやすくなっている。基準をはっきりして、ためらうことなく判定すべきである

(5) 2人のレフェルーの分担について、センターレフェルーとゴールレフェリーが判定の分野を違えている場合が見られる。重複する部分はあるにしても原則的に分担すべき部分―たとえばサイドラインについては自分の位置している側のサイドライを監視するなど)である(復審制に関する規範参照

(6) ゴールエリア附近のプレーについて。ゴールエリア附近の復雑なプレーは、ゴールエリアに入って防御したのか、相手に押しこまれたのか適確に判定しなければならない。

(了)

◉各地学生春季リーグ戦

北大の好調つづく
室蘭工大2位に

北海道
（5月2・3日・6校 室蘭市体育館）

2日間で各校とも5試合をこなす強行日程だったが、今シーズンも、北大が危気ない試合ぶりで勝ち進み、肉薄を期待された地元・室蘭工大も善戦にとどまった。

北大はこれで、第1回の昨春に続き連勝、道知事杯(秋季リーグ)と併せると8連勝である。

北大がシーズン毎にチーム力を安定させているのに比べ、他校はやはり攻守のバランスが未だしであいかわらずリーグの焦点は2位争いだった。

北大との差を詰めることが、リーグの発展にもつながるわけで、各校の精進を期待してやまない。

北　大 23—5 小樽商大
室蘭工大 16—11 旭川教大
釧路教大 19—15 北見工大
室蘭工大 23—14 小樽商大
旭川教大 25—18 釧路教大
北　大 12—6 北見工大
旭川教大 24—12 小樽商大
北　大 21—8 釧路教大
室蘭工大 27—16 北見工大
北　大 17—8 旭川教大
室蘭工大 22—12 釧路教大
北見工大 25—10 小樽商大
北　大 18—10 室蘭工大
旭川教大 20—19 北見工大
釧路教大 30—10 小樽商大

【順位】①北海道大5戦全勝②室蘭工大4勝1敗③旭川教大3勝2敗④釧路教大2勝3敗⑥北見工大1勝4敗⑥小樽商大5敗

（記録は読者・谷井弘氏提供の北海道新聞による）

「中京の壁」崩れる
名城、中京女大が優勝

東海
（4月26日～5月11日 1部6校・2部8校・名城大）

男女とも常勝・中京が優勝を逸する波乱の展開だった。

特に男子は、名城が互角の前半から、後半すばらしい攻守で押しまくり4点差をつけて快勝、余勢をかい残り3試合も圧倒勝ちして10シーズンぶり2度目の優勝を飾った。

中京は、45年春季第3日愛知教大戦以来、1引分（昨秋の名城戦・10—10）をはさんで、10シーズンにわたり49連勝をつづけていたもので、名城の大殊勲だった。

本誌の調べでは、中京が1部リーグで敗れたのは42年春季の名大戦（17—18）、45年春季の名城戦（8—9）についで今回が3度目、4点差の敗戦は初というもので、いかにその実力がとび抜けていたかが判る。

2部は名工大が9シーズンぶりで1位となった。

女子は南山の欠場から4校2回総当りで争はれ、緒戦で中京女が中京を制し、一歩のリードを奪い2回戦に注目が集まったが、中京は岐阜大戦を落とし優勝をあきらめなければならなかった。

中京女も、岐阜大に苦しんだが辛くも押し切って、最終戦を待たず、7シーズンぶり4度目の優勝を遂げた。

▽1部

		前半	後半		
名城	16	3—5	13—3	8	愛知教大
名大	15	7—8	8—6	14	南山
中京	37	19—3	18—4	7	滋賀大
中京	0	0—0	0—0	0	愛知教大
名城	14	8—4	6—6	10	中京

【中京】	得		【名城】	得
横山	0	GK	杉浦	0
川本	0	GK	木村	0
布垣	0	FP	山本	6
佐藤	2	FP	杉山	0
岸見	4	FP	岩田	4
三宅	0	FP	荒駒	0
野田	1	FP	高橋	2
村上	1	FP	西浜	0
西脇	2	FP	谷元	0
新子	0	FP	平山	0
安藤	0	FP	鈴木康	2
西尾	0	FP	安藤	0
10	(0)	PT	(2)	14

（審・松井、角）
（PTはこれまでの7MT）

		前半	後半		
名大	14	7—5	7—4	9	滋賀大
愛知教大	14	9—5	5—7	12	南山
名城	17	8—3	9—1	4	南山
愛知教大	18	8—4	10—7	11	滋賀大
中京	26	13—6	13—4	10	名大
名城	32	18—5	14—4	9	名大
名城	33	15—6	18—3	9	滋賀大
中京	21	5—7	16—3	10	南山
南山	17	11—2	6—1	3	滋賀大
名大	23	14—7	9—4	11	愛知教大

【順位】①名城5戦全勝②中京4勝

1敗③名大3勝2敗④愛知教大2勝3敗⑥南山1勝4敗⑥滋賀大5敗

▽2部予選ラウンドA組
岐阜大 27—12 静岡大
岐阜大 33—5 名古屋学院
静岡大 17—12 名古屋学院

▽同3組
三重大 16—14 中部工大
中部工大 16—14 愛大名古屋
三重大 19—16 愛大名古屋

▽同C組
名工大 14—10 愛大豊橋
参加予定の名古屋市立大棄権のため、Cブロックは1試合。

▽2部7・8位決定戦
愛大名古屋 24—9 名古屋学院

▽同4〜6位決定リーグ
愛大豊橋 15—8 中部工大
愛大豊橋 25—15 静岡大
静岡大 16—14 中部工大
【順位】④愛大豊橋⑥静岡大⑥中部工大

▽同1〜3位決定リーグ
岐阜大 16（9—4、7—2）6 三重大
名工大 16（10—2、6—8）10 三重大
名工大 12（4—2、8—9）11 岐阜大
【順位】①名古屋工大②岐阜大③三重大

全日本学生（男女）、韓国へ遠征

全日本学連は、6月12日から21日まで韓国で行われる第9回（女子第4回）日韓学生交流に出場する選手団（役員7、選手27）の選考を進めていたが、5月12日の全国役員会（東京）で別掲のように決めた。

全日本学生が韓国へ遠征するのは史上4度目、女子は2度目、韓国では男女とも5試合を行う予定。

男子は、村田（法政）、蒲生（中央）、斉藤幸（日体）、GK柴田（法政）のオリンピック候補選手をはじめ、大熊、藤本（いずれも中央）、菅野（日体）、丸井（大体大）らヤング全日本の選手が顔を並べている。

村田、蒲生、大庭（同志社）、山本（名城）、布垣（中京）、中馬（九州産大）の6選手は、今春の世界学生出場選手。

女子は、関東学連主体の編成となっている。

過去の通算成績は、男子が42戦25勝4分13敗（うち7人制は36戦19勝4分13敗）、女子が14戦7勝1分6敗でいずれも日本側のリード。一行は6月12日午後1時30分羽田発の大韓航空機で韓国へ向かう（帰国は6月21日正午羽田着の予定）

訪韓全日本学生選手団

・団長　久保義雄（関西学連理事）
・総務　勝瀬幸貞（東海学連理事長）
・随行審判員　若山博（北信越学連理事長）
・男子コーチ　三沢　澄（早大監督）
・女子コーチ　髙野　亮（東女体大監督）
・男子マネジャー　伏見和則（早大）
・女子マネジャー　宮城　薫（東女体大）

○……男子選手……○

・GK	柴田　正章	（法　政	4年	186cm）
	日比　富夫	（京都産大	4	173）
・FP	大熊　昌巳	（中　央	4	177）
	藤本　康生	（中　央	4	176）
	蒲生　晴明	（中　央	3	192）
	菅野　肇	（日　体	4	180）
	斉藤　幸司	（日　体	4	174）
	村田　幸男	（法　政	4	176）
	山田　克彦	（早稲田	4	176）
	山本　伸二	（名　城	4	178）
	布垣　元也	（中　京	4	173）
	大庭　泰	（同志社	4	180）
	丸井　圭仁	（大体大	3	165）
	中馬　成一	（九州産大	4	180）

○……女子選手……○

・GK	長谷川憲子	（日　体	4年	163cm）
	鍋田美佐子	（東女体	3	160）
・FP	藤山　聖子	（日　体	4	161）
	小田恵美子	（日　体	4	159）
	林　ふじ	（日　体	4	161）
	赤岸恵美子	（東女体	4	153）
	橋　香澄	（東女体	4	158）
	山田美代子	（東学大	3	155）
	安藤由美子	（東学大	3	155）
	奥野ルリ子	（大体大	4	161）
	金森　健子	（大体大	4	165）
	浦崎　京子	（中　京	4	153）
	辻　要	（武庫川女	4	155）

中京、岐大戦でつまづく

▽女子1回戦
中京女 11（5—2、6—3）5 中京
中京女 11（7—3、4—3）6 愛知教大
中京 15（8—4、7—4）8 岐阜大
愛知教大 9（4—3、5—3）6 岐阜大
中京 8（5—3、3—5）8 愛知教大（引き分け）
中京女 不戦勝 岐阜大

▽同2回戦
岐阜大 12（4—4、8—4）8 中京
中京女 9（4—0、5—5）5 愛知教大
中京 7（2—3、5—2）5 愛知教大
愛知教大 8（3—1、5—1）2 岐阜大
中京女 5（4—1、1—3）4 岐阜大
中京 10（5—2、5—2）4 中京女
【順位】①中京女5勝1敗②中京3勝1分2敗③愛知教大2勝1分3敗④岐阜大1勝5敗

中央、法政を追い抜き優勝（5度目）

早稲田3位　慶応、久々に4強の一角を崩す

関　東（1・2部）
（4月27日～5月11日　各8校・駒沢体育館）

近来になくもつれた展開、上位の順位は日毎に変わった。その主役は久々に元気をとりもどした慶応。

緒戦で2連勝を狙う早稲田を、実に23シーズンぶり（1部）で降し、法政戦も後半なかばまで3点を先行、日体戦は後半20分から一気に攻めこんで快勝という進撃だった。

前半の4日を終えて無敗は中央法政の2校だけ。第5日になり中央が、奮起した早稲田に食い下られて引き分け、日体に大逆転した法政が、ただ一校全勝でトップとなった。

この結果、第6日の中央×法政が大きなヤマ場となり、前半なかばから先行した中央が、法政を振り切り優勝最短距離についた。

最終日、気勢あがる中央はすばらしい攻撃で日体を一方的に押しまくり、2シーズンぶり5度目の優勝を決定。

気落ちした法政は、早稲田の粘りに屈し最終戦も落とした。

好スタートの慶応は、芝浦にたたかれて3位の夢は消えたが、41年秋以来の4位。中、法、早、日体で7シーズンにわたり築いていた4強の座を崩したのは賞されよう。

日体は、攻守のバランスが整わず、不安定な試合ぶりでBクラスに甘んじた。

下位3校では、芝浦がまとまりをみせ、明、日をおさえた。明治は総勢8人で日体と引き分ける善戦をみせたが終盤力つきた。

2部は東京教大が秀れた攻撃力で独走、5度目の優勝。前季1位の国士館が2位についた。

得点王は1部が山高邦利（早大佐世保北高出）51点、2部が角田源二（明星、前橋工出）55点だった。

◇1部

慶応 19（8－12、11－5）17 早稲田

得	【慶応】		【早大】	得
0	米内	GK	阪本	0
0	清水	GK	安田	0
6	福地	FP	山田	2
0	木村	FP	山高	10
3	川崎	FP	明石	0
3	西村	FP	鈴木	3
4	浅野	FP	泉	0
3	勝地	FP	洞ケ瀬	1
0	西	FP	北里	0
0	堀之内	FP	武井	0
0	矢島	FP	石川	0
0	草皆	FP	吉見	1
19	（0）	PT	（7）	17

（PTはこれまでの7MT）

法政 20（8－8、12－9）17 日大
日体 16（8－5、8－6）11 芝浦工大
中央 19（9－4、10－3）7 明治
中央 25（13－7、12－6）13 芝浦工大
早稲田 25（11－8、14－6）14 日大
法政 19（13－6、6－8）14 慶応
日体 12（6－8、6－4）12 明治

得	【日体】		【明治】	得
0	斉藤将	GK	岡部	0
0	清水	GK		
4	菅野	FP	山根	1
4	斉藤幸	FP	石井	2
1	坂本	FP	江幡	2
0	大房	FP	松本	3
0	庄司	FP	加納	4
0	広瀬	FP	辻	0
3	後川	FP	山本	0
0	半田	FP		
0	原田	FP		
0	越石	FP		
12	（2）	PT	（2）	12

（PTはこれまでの7MT）

慶応 20（11－4、9－7）11 日体
法政 23（11－8、12－5）13 明治
中央 20（11－5、9－7）12 日大
早稲田 24（13－5、11－7）12 芝浦工大
法政 30（15－7、15－6）13 芝浦工大

日体 16（7－5、9－8）13 日大
早稲田 20（8－4、12－2）6 明治
中央 24（11－7、13－6）13 慶応
慶応 19（10－10、9－6）16 明治
芝浦工大 19（9－9、10－6）15 日大

得	【芝浦】		【日大】	得
0	新井田	GK	高林	0
		GK	大畑	0
2	舛屋	FP	阿部	2
0	伊集院	FP	菊地	0
0	栗林	FP	西子	0
4	斉田	FP	大塚	3
7	安中	FP	田山	0
0	柳沢	FP	桜井	1
1	柳原	FP	新井田	6
5	押切	FP	前島	0
		FP	今井	3
		FP	手島	0
19	（1）	PT	（0）	15

（PTはこれまでの7MT）

中央 21（11－10、10－11）21 早稲田

得	【中央】		【早大】	得
0	田村	GK	阪本	0
0	小松	GK	安田	0
2	大熊	FP	山田	5
3	戸田	FP	山高	6
4	藤本	FP	洞ケ瀬	4
7	蒲生	FP	鈴木	3
3	西窪	FP	泉	2
2	金沢	FP	明石	0
0	足立	FP	北里	1
0	関	FP	武井	0
0	坪子	FP	石川	0
0	大久保	FP	吉見	0
21	（3）	PT	（1）	21

（PTはこれまでの7MT）

法政 22（14－8、8－13）21 日体

芝浦工大、慶応つぶす

芝浦工大 19（11－8、8－5）13 慶応
明治 13（5－10、8－2）12 日大
日体 20（11－9、9－8）17 早稲田

得	【法政】		【日体】	得
0	柴田	GK	斉藤将	0
0	由利	GK	清水	0
8	村田	FP	菅野	3
4	上滝	FP	斉藤幸	5
4	青山	FP	坂本	5
4	阿部	FP	大房	1
1	古関	FP	庄司	0
0	辻	FP	広瀬	0
0	橋本	FP	後川	3
0	庄司	FP	半田	4
0	中野	FP	原田	0
1	角本	FP	大西	0
22	（3）	PT	（1）	21

（PTはこれまでの7MT）

中央 17（8－9、9－6）15 法政

得	【中央】		【法政】	得
0	田村	GK	柴田	0
0	小松	GK	由利	0
3	大熊	FP	村田	7
4	西窪	FP	上滝	2
3	戸田	FP	青山	2
3	蒲生	FP	阿部	3
3	藤本	FP	古関	0
0	足立	FP	辻	1
0	関	FP	橋本	0
1	坪子	FP	庄司	0
0	大林	FP	中野	0
0	大久保	FP	角本	0
17	（1）	PT	（1）	15

（PTはこれまでの7MT）

慶応 18（12－6、6－5）11 日大

関東学生男子（1部）

	中	法	早	慶	体	芝	明	日	勝	分	負
①中央	…	○	△	○	○	○	○	○	6	1	0
②法政	●	…	●	○	○	○	○	○	5	0	2
③早大	△	○	…	●	●	○	○	○	4	1	2
④慶応	●	●	○	…	○	●	○	○	4	0	3
⑤日体	●	●	○	●	…	○	△	○	3	1	3
⑥芝浦	●	●	●	○	●	…	○	○	3	0	4
⑦明治	●	●	●	●	△	●	…	○	1	1	5
⑧日大	●	●	●	●	●	●	●	●	0	0	7

【2部順位】①東京教大7戦全勝②国士館5勝2敗③駒沢・東京学芸大4勝3敗⑤千葉工大・順天堂3勝4敗⑦東海2勝5敗⑧明星7敗

芝浦工大 15（9 6―6 3）9 明治
中央 25（11 14―6 5）11 日体
早稲田 21（14 7―8 8）16 法政

2部は東京教大が全勝

◇2部
千葉工大 12（8 4―7 4）11 国士館
駒沢 14（10 4―3 8）11 東海
東京学芸大 19（10 9―10 8）18 明星
東京教大 19（7 12―4 1）5 順天堂
駒沢 26（13 13―8 6）14 明星
東京教大 20（9 11―9 7）16 国士館

得	【教大】		【国士】	得
0	上原	GK	高橋	0
0	須波	GK	山道	0
1	萩野	FP	山本	1
6	浜田	FP	得尾	4
4	川原	FP	座間	5
4	佐藤	FP	斉藤	0
5	田川	FP	佐藤	1
0	橋本	FP	田中	4
0	若岡	FP	今野	0
0	小西	FP	大城	0
0	白井	FP	仲里	1
		FP	関本	0
20（3）		PT		（2）16

（PTはこれまでの7MT）

千葉工大 11（5 6―7 3）10 順天堂
東京学芸大 18（10 8―10 4）14 東海
東海 20（7 13―9 10）19 明星
国士館 17（8 9―7 7）14 順天堂
東京学芸大 14（7 7―6 4）10 駒沢
東京教大 16（7 9―3 6）9 千葉工大
東京教大 18（9 9―6 6）12 駒沢
駒沢 21（12 9―9 2）11 千葉工大
東京教大 18（10 8―5 1）6 東京学芸大
国士館 28（12 16―7 5）12 東海
駒沢 23（11 12―6 6）12 順天堂
東京教大 16（6 10―7 7）14 東海
千葉工大 18（13 5―7 7）14 明星
国士館 19（12 7―6 7）13 東京学芸大
東京学芸大 19（12 7―5 3）8 千葉工大
国士館 30（16 14―12 17）29 明星
順天堂 15（8 7―5 9）14 東京学芸大
東京教大 35（19 16―4 4）8 明星
国士館 20（6 14―12 6）18 駒沢
国士館 19（12 7―6 8）14 東京学芸大
東海 27（17 10―9 9）18 千葉工大
順天堂 29（15 14―8 10）18 明星

ハイライト5番

・慶応×早稲田（第1日）慶応は前半なかばから早大の乱調につけこんで優位に立ち、川崎の巧技などで25分10―4とリード後半、早大は相手の荒い守りから5本のPTを得、山高が丹念に決めて追撃したが、慶応は18分17―15から勝地、浅野の得点で19―15とし逃げこんだ。

慶応が1部の対戦で早稲田を破ったのは37年秋季以来のこと7人制では初めて。

・日体×明治（第2日）日体は後半5分8―5としたが、ここで斉藤幸（オリンピック候補）が2分間の反則退場を課せられリズムを崩し、明治は松本を中心に一気に攻めこみ18分10―10に追いついた。明治はこのあとも押し気味で26分12―11と先行したが、日体は27分菅野のゴールで辛くも引き分けた。

・中央×早稲田（第5日）乱打戦。早大が11―9、14―12と二度ペースをつかむ好機をつかんだが中央の粘りを許し、逆に先行されるなどあって、後半17分19―19と14度目のタイスコア。

このあと中央が20分大熊、24分進境著しい西窪で21―19とし押し切るかとみえたのだが、早大も拾てず、25分山高、28分山田で同点残り2分間は互いにチャンスをつかめず時間切れ。

・中央×法政（第6日）勝てば優勝の法政は4分上滝のゴールで好スタート。しかし、中央は大熊の果敢なリードで力感あふれた攻撃をみせ4分30秒から連続4点、落ち着いた。

法政もよく追撃したが、ディフェンスが肝心なところでもろく、特に後半5分8―9と詰めながら再び連続4ゴールを奪われたのが痛かった。

中央は17分14―10と開き、そのあと法政・村田（オリンピック候補）の妙技に追はれる場面もあったがもちこたえ、優勝へ半歩の不利を、逆に抜きかえした。中・田村、法・柴田（オリンピック候補）両GKの好技もあって、今季最高の好内容。

・早稲田×法政（最終日）最終戦にふさわしい熱戦。

早は法のエース村田を終始、マンツウマンで徹底的にマークしたが、法は上滝、青山の活躍で後半5分9―7とリード。

しかし、早はこのあと鈴木の巧技で逆に主導権を奪い、一気のたたみかけで押し切った。

慶応戦でつまづいた早稲田の立ちなおりはさすがと云える。

日体、文句なしの31度目

関東女子

（4月27日～5月11日 5校・駒沢体育館）

相変らず日体と東女体大が抜群。

ダークホース視されていた東京学芸大は、東女体大戦の前半せっかくリードを奪いながら、後半ノーゴールという拙攻で敗れ、日体戦も後半なかばから崩れ、押し切られた。

日体—東女体の〝決勝〟は、前半10分をすぎて早くも日体のペースとなり、後半11分には10—2の大差がついた。

日体の優勝は4シーズン連続31度目。

最多得点(個人)は、せりあいの末16ゴールをあげた岩本徳子（日体3年、京都精華女高出）。4シーズン連続という快記録がかかっていた山田（東京学芸大）は岩本に1ゴール及ばなかった。

東京学芸 12（7—6 5—1）7 東京教大

【学芸】	得
GK 高橋	0
芳賀	0
FP 永沢	0
斉藤昭	1
奈倉	2
山田	6
安藤	3
星野	0
前田	0
斉藤順	0
寺井	0
小畑	0
PT	（1）12

【教大】	得
GK 坂梨	0
松永	0
FP 白鳥	0
土屋	1
中島	0
吉本	0
坂本	6
西山	0
金長	0
森戸	0
野村	0
菊池	0
PT	7（0）

〈PTはこれまでの7MT〉

東女体大 10（5—3 5—1）4 日女体大

日体 18（6—1 12—0）1 日女体大

【日女】	得
GK 田草川	0
山岸	0
FP 渡辺	1
青木	0
鈴木	0
前島	0
近藤	0
炭谷	0
川野	0
高野	0
小崎	0
佐藤	0
PT	（0）1

【日体】	得
GK 長谷川	0
大森	0
FP 藤山	3
小田	0
寺尾	0
林	4
岩本	6
門田	1
中村	3
水口	0
宮崎	0
寺尾	1
PT	18（3）

〈PTはこれまでの7MT〉

東女体大 10（7—1 3—1）2 東京教大

東京学芸 18（7—6 11—5）11 日女体大

日体 14（6—1 8—7）8 東京教大

東女体大 10（2—3 8—0）3 東京学芸大

日体 13（5—4 8—4）8 東京学芸大

東京教大 19（6—3 4—0）3 日女体大

日体 12（6—2 6—4）6 東女体大

【東女】	得
GK 鍋田	0
横田	0
FP 赤岸	2
篠倉	1
高橋	0
橋	0
寺田	0
三沢	0
岩永	1
甲斐	2
中田	0
西峰	0
PT	（0）6

【日体】	得
GK 長谷川	0
FP 藤山	3
小田	2
木元	1
寺尾	0
林	2
岩本	3
宮崎	0
中村	1
水口	0
寺尾	0
PT	12（2）

☆優秀選手

（男　子）
K 柴田(法)④
F 大熊(中)②
蒲生(中)③
藤本(中)初
西窪(中)初
村田(法)⑤
山田(早)初
山高(早)初
菅野(体)初

（女　子）
K 鍋田(東)③
F 藤山(日)③
林　(日)初
岩本(日)初
赤岸(東)初
安藤(学)初
坂本(教)初

○内は受賞回数

〈PTはこれまでの7MT〉

【順位】①日体4戦全勝②東女体大3勝1敗③東京学芸大2勝2敗④東京教大1勝3敗⑤日女体大4敗

関東男子3、4、5部

青山学院3部を制す

雨天、交通ゼネストなどの影響で日程が乱れたが、4月27日から5月22日まで駒沢第一球技場（屋外）で120試合を消化した。

3部は、青山学院がほとんど一方的な試合ぶりで快勝をつづけ、2シーズンぶり2度目の優勝。

4部も防衛大が独走、初優勝した。5部は新たに都留文化大（山梨）、埼玉大が加盟、16校をまず2グループに分けリーグ戦、各組同位校で順位を争い武蔵大が都留文化大を降して優勝した。

各部の得点王は、3部が小泉豊（青山学院、小金高出）50点、5部が中村正（千葉商大）49だった。4部は本誌締切りまでに未発表。

なお、5部の群馬大は不参加。

◇3部

関東学院 10—6 東大
成蹊 22—14 武蔵工大
青山学院 25—7 東京工大
立教 14—10 横浜商大
青山学院 32—10 横浜商大
成蹊 12（分）12 東大
立教 13—9 東京工大
関東学院 21—9 武蔵工大
東京工大 19—14 成蹊
青山学院 18—7 東大
立教 14—10 武蔵工大
関東学院 22—12 横浜商大
立教 12—3 東大
東京工大 12—9 関東学院
成蹊 不戦勝 横浜商大
青山学院 27—12 武蔵工大
関東学院 9—6 立教
青山学院 18—12 成蹊
武蔵工大 18—6 横浜商大
東大 13—8 東京工大
東大 13—9 横浜商大
立教 20—19 成蹊
青山学院 27—14 関東学院
東京工大 15—13 武蔵工大
武蔵工大 12—8 東大
東京工大 19—13 横浜商大
青山学院 11—9 立教
関東学院 25—20 成蹊

【順位】①青山学院7戦全勝②関東学5勝2敗（得失点差18）③立教

5勝2敗(17)⑥東大・成蹊2勝1分4敗⑦武蔵工大2勝5敗⑧横浜商大7敗

◇4部

4部は防衛大が独走

東京経大 15―5 都立大
防衛大 21―5 日本工大
茨城大 15―12 千葉大
専修 15―11 上智
日本工大 18―6 都立大
上智 17―7 千葉大
専修 11―10 茨城大
防衛大 14―6 上智
東京経大 12―8 千葉大
茨城大 12―8 都立大
専修 15―11 日本工大
防衛大 12―7 東京経大
茨城大 日本工大
日本工大 19―18 千葉大
上智 13―11 都立大
東京経大 10―8 専修
防衛大 16―10 茨城大
専修 都立大
上智 14―12 東京経大
防衛大 27―9 千葉大
上智 17―12 日本工大
千葉大 15―10 都立大
茨城大 13―8 東京経大
防衛大 16―10 専修
専修 14―9 千葉大
東京経大 22―19 日本工大
上智 17―13 茨城大
防衛大 10―4 都立大

【順位】①防衛大7戦全勝②茨城大5勝2敗(得失点差11)③上智5勝

院5勝2敗(8)④東京工大5勝2敗(6)④東京経大・専修4勝3敗⑥日本工業大2勝5敗⑦千葉工大1勝6敗⑧都立大7敗

◇5部Aブロック

神奈川大 20―7 埼玉大
一橋 13―3 東京農工大
和光 25―11 亜細亜
東京写真大 25―13 武蔵
東京農工大 20―6 東京写真大
武蔵 15―12 一橋
神奈川大 27―8 亜細亜
埼玉大 15―11 和光
一橋 不戦勝 東京写真大
和光 18―12 神奈川大
武蔵 18―10 埼玉大
東京農工大 18―15 亜細亜
神奈川大 25―8 東京写真大
埼玉大 23―16 亜細亜
武蔵 18―12 東京農工大
和光 10―7 一橋
一橋 15―10 亜細亜
埼玉大 23―8 東京写真大
武蔵 16―13 神奈川大
東京農工大 15―13 和光
武蔵 23―15 和光
神奈川大 20―11 東京農工大
埼玉大 12―8 一橋
東京写真大 不戦勝 亜細亜
東京農工大 10(分)10 埼玉大
和光 22―4 東京写真大
武蔵 15―8 亜細亜
神奈川大 19―11 一橋

【順位】①武蔵7戦全勝②神奈川6勝1敗③埼玉大(新加盟)4勝1分2敗④東京農工大3勝1分3敗⑥和光3勝4敗(得失点差15)⑥一橋3勝4敗(11)⑦亜細亜1勝6敗⑧東京写大7敗

▽同Bブロック

千葉商大 28―12 山梨大
都留文化大 19―13 独協
横浜市大 11―7 東邦
明治学院 18―16 東京理科大
都留文化大 24―12 横浜市大
東京理科大 17―11 独協
千葉商大 不戦勝 東邦
横浜市大 22―12 山梨大
千葉商大 12―10 東京理科大
千葉商大 20―18 都留文化大
独協 14―11 山梨大
明治学院 20―14 東邦
東京理科大 18―9 横浜市大
独協 12―4 東邦
都留文化大 17―13 明治学院
独協 16―10 横浜市大
明治学院 35―20 千葉商大
東京理科大 不戦勝 山梨大
都留文化大 18―4 東邦
明治学院 不戦勝 山梨大
独協 記録不明 明治学院
千葉商大 17―15 横浜市大
都留文化大 17―12 東京理科大
明治学院 15―12 横浜市大
東邦 ○―○ 東京理科大
都留文化大 不戦勝 山梨大
千葉商大 27―12 独協
東邦×山梨は両者棄権で不成立

【順位】①都留文化大(新加盟)6勝1敗(得失点差51)明治学院6勝1敗(46)③千葉商大6勝1敗(34)④東京理移大4勝3敗⑥独協3勝4敗⑥横浜市立大2勝5敗⑦東邦6敗1不成立(マイナス45)⑧山梨大6敗1不成立(マイナス65)

▽同順位決定戦・15～16位
東京写真大 不戦勝 山梨大
▽同13～14位
亜細亜 不戦勝 東邦
▽同11～12位
横浜市大 20―11 一橋
▽同9～10位
和光 不戦勝 独協
▽同7～8位
東京農工大 17―14 東京理科大
▽同5～6位
千葉商大・埼玉大とも棄権のため、ブロック戦の得失点差を適用⑥千葉商大34、⑥埼玉大9に決定
▽同3～4位
明治学院 17―14 神奈川大
▽首位決定戦
武蔵 19―12 都留文化大

◇関東学生各部入れ替え戦(5月23日・駒沢屋内球技場)＝速報

▽2～3部
明星(2部⑧) 19―18 青山学院(3部①)
東海(2部⑦) 26―7 関東学院(3部2)
▽1～2部
東京教大(2部①) 18(11―8、7―6)14 日大(1部⑧)
明治(1部⑦) 27(16―8、11―8)16 国士館(2部②)
東京教大は5季ぶりの1部復帰

圧倒的な九州産大

福岡県学生春季リーグ

福岡県学生春季リーグ戦は4月27、29の両日福岡・西南学院体育館に1部5校、2部4校が参加して行われた。

1部は予想どおり九州産大が圧倒的な強味をみせ、全勝同士・西南学院との最終戦も立ち上りからリードを奪い快勝、全試合失点を8点以内におさえこむ圧倒ぶりだった。

2部は九大が全勝優勝した。

▽1部

福岡教大 20（13－7、7－4）11 福岡大
西南学院 16（10－8、6－7）15 九州工大
九州産大 26（17－4、9－4）8 九州工大
西南学院 17（10－11、7－5）16 福岡教大
九州産大 28（15－4、13－3）7 福岡大
九州工大 15（5－8、10－6）14 福岡大
九州産大 26（17－4、9－4）8 福岡教大
西南学院 16（7－8、9－7）15 福岡大
福岡教大 19（10－7、9－7）14 九州工大
九州産大 24（12－3、12－5）8 西南学院

【順位】①九州産大4戦全勝②西南学院3勝1敗③福岡教大2勝2敗④九州工大1勝3敗⑥福岡大4敗

▽2部

福岡工大 24－13 久留米工大
東海 15－9 福岡工大
九大 24－13 久留米工大
九大 19－9 福岡工大
東海 17－9 久留米工大
九大 17－4 東海

【順位】①九大3戦全勝②東海2勝1敗③福岡工大1勝2敗④久留米工大3敗

東北学院が優勝

東北学生春季リーグ

東北学生春季リーグ戦（第9回東北学生選手権）は5月4、5の両日仙台大学体育館で行われた。

予選ラウンドを勝ちぬいた3校による決勝リーグは、東北学院がバランスのとれた攻守で仙台大、東北大を破り2勝優勝した。

▽決勝リーグ①東北学院2勝②仙台大1勝1敗③東北大2敗

▽4～6位決定リーグ④岩手大2勝⑥福島大1勝1敗⑥東北工大2敗

山口大、3季ぶり

中四国学生春季リーグ

【速報】中四国学生春季リーグ戦は5月24、25の両日山口大で行われた。

5校参加による1部は、混戦となったが、山口大が愛媛大を14－13で降した1勝が決め手となり、3シーズンぶり6度目の優勝を決めた。

2連覇を狙う広島修道は、山口大を10－8で破りながら、残る3試合で1勝しかマークできず4位に終った。

なお2位は愛媛大、3位広島大福山、5位岡山大だった。

また、女子（対抗戦）は山口大が20－8で岡山県立短大を破った。

（詳報次号）

関西

大阪体大が7連勝飾る

女子は7季ぶり

【速報】関西学生春季1部リーグ戦は、5月18日その幕を閉じ、予想どおり、大阪体大が6戦全勝、7シーズン連続優勝を飾った。

有力な対抗とみられた京都産大は、大阪経大に7－9で敗れる痛いとりこぼしがあり、順調に5勝をつみあげた大阪体大と、最終戦に望みをかけて対戦した。しかし総合力で勝る大阪体大は、前半から優位に立ち、粘る京都産大を振り切って13－9で勝ち、王座を守った。

好調な出足をみせた名門・同志社は、大阪体大戦で前半のリードを守り切れず敗れてから調子を崩し、3位に留った。下位では阪大の健斗が目立った。

一方、女子は甲子園女短大の欠場から、4校による争いだったが大阪体大と武庫川が手固い試合運びでそれぞれ成蹊女短大、大阪教大を降し、両者の対決は、秀れた守備力をもつ大阪体大が順当勝ち、7シーズンぶり通算蹊度目（注・昭43秋の準備大会優勝を含む）のこと。

3位は大阪教大、4位は成蹊女短大だった。

（詳報次号）

関西学生1部勝敗表

	体	産	同	経	阪	近	甲	勝	分	負
①大体	…	○	○	○	○	○	○	6	0	0
②京産	●	…	○	●	○	○	○	4	0	2
③同大	●	●	…	○	△	○	○	3	1	2
④経大	●	○	●	…	○	●	○	3	0	3
⑥阪大	●	●	△	●	…	○	○	2	1	3
⑥近大	●	●	●	○	●	…	○	2	0	4
⑦甲南	●	●	●	●	●	●	…	0	0	6

大学定期戦

恒例の福岡教大×山口大の定期戦は今年から男子も行われるようになり、4月1日山口大体育館で対戦した。

▽男子

福岡教大 16（6－10、10－1）11 山口大

▽女子（第2回）

山口大 7（2－1、5－3）4 福岡教大

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山茂
（NHK運動部）

ポーランド着実な試合
～スペイン国際～

ヨーロッパの中堅4ケ国が集ったスペイン国際大会は、4月20日からアリカンテで行われ、ポーランドがクレンペル、カルジンスキーらの活躍で西ドイツに引き分けた以外は、順調な試合ぶりで優勝した。

2位はグラノリエルスのサガリバイ、アペラドール、GKパゴアーガらを主力としたスペインで、サガリバイは4試合で17点を叩きだした。

復活を期待される西ドイツは、もう一つパッとしていない。

スペイン 18（10―4、8―7）11 スイス
ポーランド 17（7―6、10―5）11 オランダ
スペイン 18（11―13、7―5）18 西ドイツ
スイス 17（5―7、12―7）14 オランダ
ポーランド 22（13―6、9―6）12 スイス
西ドイツ 23（13―7、10―9）16 オランダ
ポーランド 13（8―6、5―7）13 西ドイツ
スペイン 19（11―8、8―6）14 オランダ
スイス 17（8―9、9―7）16 西ドイツ
ポーランド 22（11―7、11―8）15 スペイン

【順位】①ポーランド3勝1分②スペイン2勝1分1敗③西ドイツ1勝2分1敗④スイス2勝2敗⑤オランダ4敗

ルーマニアJが連勝
～ラテンカップ～

ラテン系各国のジュニア（ナショナルB）による恒例のラテンカップトーナメントは、3月末アルゼンチンに8ケ国が参加して行われ、ルーマニアがスペインと引き分けながら予想どおり優勝を飾った。

ヨーロッパ各国のほか、南米3国とカナダが参加して注目されたが、実力は未だしで決勝リーグはヨーロッパ勢によって争われた。

当初はモロッコ、ポルトガルのほかキューバも参加するように伝えられたが顔をみせなかった。

▽5～8位決定リーグ
カナダ 14―10 アルゼンチン
ブラジル 21―19 メキシコ
アルゼンチン 19―14 メキシコ
カナダ 記録不明 ブラジル
アルゼンチン 14―11 ブラジル
カナダ 25―13 メキシコ

▽決勝リーグ
フランス 13―11 イタリア
ルーマニア 17（分）17 スペイン
ルーマニア 29―13 フランス
スペイン 17―7 イタリア
スペイン 17―15 フランス
ルーマニア 14―5 イタリア

【順位】①ルーマニア②スペイン③フランス④イタリア⑤カナダ⑥アルゼンチン⑦ブラジル⑧メキシコ

東ドイツが優勝飾る
～大接戦の友好国杯～

一方、女子では、3月なかばにニュウブランデンバーグ（東ドイツ）で開かれた第4回友好国カップトーナメントが、強豪を集め注目された。

参加したのは、いずれも世界選手権出場を決めている東欧の7ケ国で、世界選手権の前哨戦としては見逃すことのできない顔ぶれだった。

大会は予選リーグのあと各組同位者による順位決定戦というおなじみの法式だったが、A組では地元・東ドイツがルーマニア、ハンガリーを接戦の末に降して決勝進出、B組では女王・ユーゴと、今シーズン好調のチェコが引き分けて同ポイント、得失点差でチェコが勝ちあがる激戦だった。

東ドイツ×チェコの決勝は、東ドイツがクラツメル、ペトラ、カーント、バドレックらの活躍で前半に大差をつけ快勝した。

▽予選リーグA組
東ドイツ 20―10 ポーランド
ハンガリー 15―12 ルーマニア
東ドイツ 9（5―6、4―2）8 ハンガリー
ルーマニア 25―17 ポーランド
東ドイツ 12（5―8、7―4）12 ルーマニア
ポーランド 22―19 ハンガリー

▽同B組
チェコ 22―14 ソ連
ユーゴ 19―16 東ドイツB
ソ連 10（分）10 東ドイツB
チェコ 14（9―9、5―5）14 ユーゴ
チェコ 15―9 東ドイツB
ユーゴ 16（8―6、8―9）15 ソ連

▽7位決定戦
ポーランド 16―14 東ドイツB

▽5位決定戦
ハンガリー 16（9―5、7―9）14 ソ連

▽3位決定戦
ルーマニア 19（13―8、6―10）18 ユーゴ

▽決勝
東ドイツ 15（11―5、4―7）12 チェコ

IOC「中国問題」延ばす
パキスタンはア大会返上か

ローザンヌで開かれていたIOC（国際オリンピック委員会）総会は、中国復帰についてその審議を後日に延期した。

これは、各報道機関によって伝えられたもので、中国ハンドボール界がIHF（国際ハンドボール連盟）への初加盟の動きを示すことも、当然予想されるだけに、日本協会関係者は、今後、IOCがどのように〝中国問題〟を取り扱うか注目している。

また、このニュースと前後してパキスタンが、一九七八年（昭53）首都イスラマバードで行う手はずを進めていたアジア競技大会を、財政上の理由から返上する可能性が強くなった、と伝えられている。

昨年のAGF（アジア競技連盟）の評議員会で、ハンドボールはAGF種目となり、イスラマバード大会での実施が期待されていただけに、この大会が流れると、せっかく種目に入りながら、採用される機会が遠ざかる公算が強い。

日本ハンドボール界にとって「中国」と「アジア大会」は、現在最大の関心事といってよく、この二つのニュースは、今後さまざまな反響をよびおこしそうである。

アルジェリアが2勝

～アフリカ3国対抗～

活発な動きの伝えられるアフリカ地域だが、このほどアルジェリアで3国対抗が行われ、アルジェリアが手固く2勝した。

この大会は、オリンピックアフリカ予選の前哨戦としても、注目を集めていたものである。

チュニジア 17（9－4 8－6）10 モロッコ
アルジェリア 17（6－5 11－4）9 モロッコ
アルジェリア 13（4－5 9－6）11 チュニジア

ルーマニアとノルウェー

世界女子で日本と対戦の両国陣容

今冬の世界女子選手権の組み合せ（予選リーグ）が決まり、本誌でも前号に発表されているが、日本の相手ルーマニア、チェコ、ノルウェーは、いずれも強敵だ。

女子は、男子以上に東欧勢が強く、今回参加の7カ国はすべて優勝候補といってよい。

その間にはさまって、もし上位へ進出するとしたら日本かノルウエーというのが通り相場なのだから、日本も楽観は許せない。

ルーマニアは、前回(昭48)準優勝のうち、GKモーゼ、オアンシア、フリンク、フリブナックが抜けただけでアルギール、ゾス、ミクロス、GKイオネスクらの主力が健在である。

このところ、なにかというと顔合せするノルウェーは、今シーズンあまり活気は伝わってこないが前回の陣容と大差のない顔ぶれのようだ。

2回つづけて日本が痛い目にあっているカレン・フラセットはホームクラブでは、いぜん抜群の攻撃力を誇りエースの座にいるが、ナショナルのリストには入っていない。

三度び日本戦と聞いて彼女が姿を見せるかどうか、前回同よう、また大会前夜まで？になりかねない。

ルーマニアとノルウェーの今季の主力は次のとおりだが、面白いことに両国はそれぞれ西ドイツと対戦しており、ルーマニアは16－11、15－15の1勝1分、ノルウエーは5－8、13－10の1勝1敗だった。

〔ルーマニア〕GKスタン、ロニカ、イオネスク、FPアルギールズース、ヴィエル、ミクロス、イリイ、コヨカリータ、カクタ、ペトロビカ、コヨカル、ボッシ、フルコオイ、ペパ、ロルダシエ

〔ノルウェー〕GKフアウスク、グロフォロ、FPクヌドセン、ブレーヌ、G・アンデルセン、アニスダール、アガルド、B・アンデルセン、イベルセン、スーベ、オルセン、エリクセン

（注）チェコの陣容も判りしだいお伝えするつもりです。

各国選手権

昨年秋から半年間のロングランをつづけていた各国のチャンピオンシップ（全国リーグ）が、つぎつぎと新しい王者を決めて幕をおろしている。

特に西欧は、ほとんどの国が全日程を終えた。

・西ドイツ・ いわゆるブンデス・リガ。20チームが南北両地区に分かれ、それぞれ2回総当り。両地区上位2チームの決勝トーナメントの結果、おなじみのVfL・グンメルスバッハ（昭46来日）、GW・ダンケルセン（昭47来日）と北地区同士の決勝になり、グンメルスバッハが13－7で快勝、3年連続4度目の優勝となった。

女子は5地域の勝者が決勝トーナメントを争いアイントラクト・ミンデンが優勝。一昨年来日したOSC・ラインハウゼンは西地域リーグで9位、来年から発足の全国リーグ入りは成らなかった。

・スウェーデン・ 10チームが2回総当り。フリョール・ヨテボリが13勝1分4敗でタイトルを手にした。来日を希望しているルギ・ルンドは8勝2分8敗で5位に終っている。

・デンマーク・ 10チームが2回総当り。フレデリカ・KFUMが圧倒的な強味を示し16勝1分1敗でチャンピオンとなった。

昨春来日したスタジオン・IFコペンハーゲンは7勝1分10敗で6位とふるわなかった。

・フランス・ 20チームが2組に分かれて、各2回総当り、各組上位2者が決勝トーナメントへ進出した。

今季は2組ともかつてない大激戦となりファンの関心を集めたがパリUC、セントマルセイユUCステラ・サンモール（昭39来日）、CSディジョンが勝ちあがり、さらに決勝はパリ×セントマルセイユの学生勢の顔合せとなった。

四千をこす観衆を前に接戦を演じた末、19－15でセントマルセイユがチャンピオンの座についた。

・スペイン・ 12チームが2回総当り。今季は各チームが他国から有力選手を加えたためクロスゲームが多く、活気にみちた内容となった。

3連勝を目指すバロンマノ・グラノリエルス（今春来日）が出遅れて3位、スタートから好調のカルピサ・ド・アリカンテの優勝。

このほか、スイス（10チーム2回総当り）ではチューリッヒ・グラスホッパーズが優勝を決めた。

アメリカで盛んな
ウォール・ハンドボール

新井　節男
（兵庫協会常任理事
関西学院大学助教授）

アメリカのハンドボールの実力があがり、ヨーロッパ地域以外の国では、間もなく日本に肩を並べるところまでいくのではないかと云われているが、それにつれて、アメリカでのウォールハンドボール（Wall-Handball）との混同が生じ、愛好者の質問もしばしばとなってきた。

一方、日本国内では社会体育の掛け声にのってウォールハンドボールが、そのコンディションメーキングという点における有効性を注目され国内都市部で、普及の度合を増しつつある。

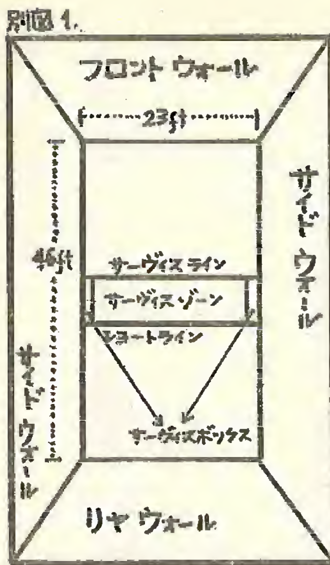
ウォール・ハンドボールと、我々の親しんでいるハンドボール。

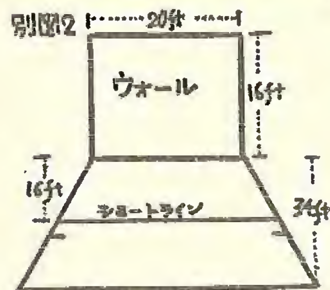
正しい理解を得るために、ウォール・ハンドボールを紹介しておきたい。

◇

我々が行っているハンドボールは、ドイツ、デンマーク、スウェーデンに発祥の起源をもつヨーロッパ式のハンドボールだが、アメリカではこれをティーム・ハンドボール（Team Handball）と呼んでいる。

アメリカで「ハンドボール」と云えば、このティーム・ハンドボールを指すのではなく、壁ハンドボールともいうべきウォール・ハンドボールなのだ。





このスポーツはコンディションづくりに広く用いられ、YMCAをはじめアスレチッククラブ、大学の体育館などに施設をもっている。

起源は10世紀頃のアイルランドと云われ、テニスの原型とも考えられている。

初期の頃、アイルランド、イギリスなどではファイブス（Fives=手の意味）と呼ばれ、現在でも、この名称で行っている学校がイギリスにはあるという。千八百年後半アイルランドのスター選手、フィルキャセイ（Phil・Casey）がアメリカに移住、仲間をつのって流行させ、特に消防士がレジャー・スポーツとして盛んに行ったといわれる。

千八百年代末には全米選手権、世界選手権者決定戦も開かれ、一九五一年にはUSHA（合衆国ハンドボール連盟）が設立され、会報活動などが始った。

千九百年までは22フィートの高さをもつ4つの壁に囲れた46×22フィートのコートで、硬質球によって実施されたが、簡便な一方向のみに壁を置き軟質球を用いる「ワン・ウォール」が考案され普及の度合を早めた。「スリー・ウォール」もある。



▼ウォールハンドボールの一こま（Sports illustrated（米）誌、一九七四年四月十五日号から）

ルールの概要

〔コート〕　フォア・ウォールは別図①のようなもので、中央にショートライン（センターライン）があり、その5フィート前にサーヴィスラインがある。この二線の間がサーヴィスゾーンでこの両サイドに、幅18インチのサーヴィスボックスがある。

別図②はワン・ウォール用。壁から16フィート離れたフロアーにショートラインがあり、このラインの9フィート後に幅4インチのサービスエリアが引かれる。

〔ボール〕直径$1\frac{7}{8}$インチ（約4.8cm）重さ2、3オンス（約65g）の空気の入った黒いゴムボール。プレイヤーは柔い手袋を着用する。

〔競技方法〕　シングルス、ダブルスの二方法があり一方のプレイヤーがサービスゾーンでサーブを行うことによって競技開始。（その時、相手プレイヤーはサービスボックス）

サーブは、ボールを床にはずませ片手で打つ。このボールが前の壁（フロント）に当って、ショートラインを越えて返ってくればよい。

天井、側壁、後壁にボールが当ってもよいが、サーブの時だけは前の壁に当った直後に、ショートラインから後の床にボールが当たらなければならない。

リターンはボレー（床に落ちる前に直接打つ）するか、床でワンバウンドしたボールを打って、前の壁に当てる。この場合、前壁にあたる迄に後壁、側壁、天井に当ってもよい。

サーブからのボールが相手により、正しくリターンされるとボールはインプレーの状態となり、一方のプレーヤーがリターンに失敗するまで交互にリターンを続ける。

ゲームは15点または21点先取したほうが勝者となるが、サーブ権のある方にのみポイントが与えられ、サーブ権を持つ側のミスによってサーブ権は移動する。（投稿）

中国高校選手権

岩国工、2連勝を飾る

女子は山陽女

新シーズンのブロック高校選手権のトップを飾る第26回中国高校選手権は、5月11、12日の両日山口高校グラウンドに、5県男女各16校が参加して行われた。

男子は、山口勢が強味をみせ、ベストフォアの3校を占め、かってない強力チームとの呼び声が高い岩国工が、ライバルの下松工、下関中央工を降して2年連続6度目の優勝を飾った。山口代表の優勝は3年連続19度目。

女子は有力チームがひしめきあい、激しい展開となったが、山陽女(広島)が決勝で徳山(山口)の反撃を振り切って勝ち、4年ぶり8度目のタイトル獲得となった。

徳山は昨年につづき惜しくも2位にとどまった。

広島代表の優勝は2年連続10度目。

▽男子1回戦

下関中央工(山)24—13松江南(島)
津山工(岡)17—6米子東(鳥)
下関一(山)16—8津山(岡)
修道(広)16—9浜田水産(島)
山陽(広)18—15松江工(島)
下松工(山)26—8境港工(鳥)
倉吉工(鳥)14—12三原工(広)
岩国工(山)20—5倉敷工(岡)

▽同準々決勝

下関中央工 13（6—2 7—2）4 津山工
修道 13（3—3 10—2）5 下関一
下松工 22（10—2 12—5）7 山陽
岩国工 19（8—2 11—2）4 倉吉工

▽同準決勝

下関中央工 15（8—2 7—6）8 修道
岩国工 17（8—5 9—5）10 下松工

▽同決勝

岩国工 13（6—4 7—2）6 下関中央工

▽女子1回戦

山陽女(広)22—3倉吉西(鳥)
高水(山)9—7真備(岡)
岩国商(山)15—4操山(岡)
広島一女商 9—2松江市女(島)
進徳(広)13—2松江家政(島)
岩国(山)13—2倉吉産業(鳥)
浜田商(島)19—5呉宮原(広)
徳山(山)18—2金川(岡)

▽同準々決勝

山陽女 13（6—3 7—1）4 高水
岩国商 8（5—3 3—4）7 広島第一女商
岩国 9（5—3 4—2）5 進徳
徳山 19（11—2 8—3）5 浜田商

▽同準決勝

山陽女 10（5—6 5—3）9 岩国商
徳山 10（5—1 5—6）7 岩国

▽同決勝

山陽女 12（6—2 6—6）8 徳山

各地の記録

田村紡、PT合戦で優勝

第11回東海実業団女子選手権大会は、5月11日岐阜県民体育館に4チームが参加して行われ、田村紡(三重)×ブラザー工業(愛知)の決勝は、まれにみる激戦となり、第2延長でも結着がつかず、ペナルティスロー(PT=旧7MT)コンテストの結果、田村紡が辛勝した。2年ぶり9度目の優勝。

▽準決勝（=1回戦）

ブラザー工業(愛知) 37（21—0 16—1）1 岐阜市民病院(岐阜)
田村紡(三重) 23（12—0 11—2）2 三洋電機(岐阜)

▽決勝

田村紡 16（4—3 7—8 ： 1—3 2—0 ： 1—1 1—1）16 ブラザー工業

PTコンテスト4—2で田村紡の勝ち。

選手権を各地転戦化

東海実連、踏み切る

東海実連は、今年度からその選手権方式(男子)を大幅に変更することとなり、検討を進めていたがこのほど、基本線として全日本実連の採用しているシステムを登用することにまとまった。

これは昭和40年からつづけている東海実業団選手権を、有力チームの総当り戦で争い、その他のチームは別に、トーナメント（ナックアウトシステム）を組むというもの。

まず5月11、25の両日トーナメントを行い、そのベスト8と日本実業団リーグ参加の大同製鋼（愛知)、本田技研鈴鹿(三重）の計10チームによって、今秋11月30日から来年2月15日まで東海各地を転戦してチャンピオンの座を競う。（=前掲）

女子はこれまでのまま。

日本実業団リーグの発足や、日本リーグ発足機運など、ビッグエベントを、従来の一本勝負からヨーロッパなみの総当り戦で行う傾向が強まっているのは注目される

なお、東海実連は、今冬2月から3月にかけて日曜日4回を使い高山市、東海市などで5チームによる「東海実業団リーグ戦」を行っている。記録次のとおり。

新日鉄名古屋(愛知) 20—12 三洋電機(岐阜)
二和家具(岐阜) 28—9 日本耐酸壜(岐阜)
トヨタ車体(愛知) 16—13 新日鉄名古屋
二和家具 30—11 三洋電機
トヨタ車体 42—9 日本耐酸壜
二和家具 27—16 新日鉄名古屋
トヨタ車体 35—10 三洋電機
日本耐酸壜 14—13 三洋電機
トヨタ車体 24—15 二和家具
新日鉄名古屋 25—19 日本耐酸壜

【順位】①トヨタ車体4戦全勝②二和家具3勝1敗③新日鉄名古屋2勝2敗④日本耐酸壜⑥三洋電機

▼神奈川県春季選手権大会（5月・関東学院）=男子のみ

▽上位リーグ

セントラル自動車 15—9 県教員団
三春台ク 15—14 セントラル自動車
セントラル自動車 9—7 日本発条
三春台ク 21—13 神奈川教員団
日本発条 22—16 神奈川教員団
三春台ク 15—12 日本発条

【順位】①三春台ク3戦全勝②セントラル自動車2勝1敗③日本発条1勝2敗④神奈川教員団3敗

▽トーナメントの部準々決勝

ネービー・ク 12—9 東ク
自衛隊久里浜 32—12 川和ク
日進商会 17—13 蒔田ク
Y・F・C 26—13 法二ク

▽同準決勝

自衛隊久里浜 17—14 ネービー・ク
Y・F・C 18—15 日進商会

▽同決勝

Y・F・C 28—14 自衛隊久里浜

女子で一条、抜けだす

▼奈良県高校春季選手権（4月・添上高）

▽男子準々決勝

奈良 21—5 十津川

畝傍 17—6 東大寺

一条 12—10 橿原学院

添上 25—3 榛原

▽同準決勝

添上 25—5 一条

奈良 15—10 畝傍

▽同3位決定戦

畝傍 14—9 一条

▽同決勝

添上 18（9—4、9—4）8 奈良

▽女子1回戦（3試合）

一条 12—6 添上

十津川 15—8 短大附

郡山 25—0 榛原

▽同準決勝

一条 8（延）7 生駒

郡山 10—4 十津川

▽同決勝

一条 10（5—4、5—4）8 郡山

津山工、秀れた攻撃力

▼岡山県高校優勝大会（4月・岡山操山高）

▽男子準々決勝

津山工 19—2 操山

天城 12—8 津山商

倉敷工 17—7 成羽

津山 17—10 岡山工

▽同準決勝

津山工 21—15 天城

倉敷工 15—9 津山

▽同決勝

津山工 18（6—4、12—4）8 倉敷工

▽女子準々決勝

真備 16—2 津山

大安寺 7—2 落合

操山 15—6 青陵

金川 8—7 津山商

▽同準決勝

真備 15—1 大安寺

金川 15—0 操山

▽同決勝

金川 7（5—3、2—3）6 真備

岩国工、抜群の力示す
三重で合同キャンプ

春休みを利用して行われる恒例の「三重・高校合同キャンプ」が3月25日から4月5日までの12日間にわたり、三重県鈴鹿市で開かれた。

三重協会が運営するこのキャンプは3回目、去年までは女子だったが、今年は初めて男子を企画。25日を待ちかねるように坂出工（香川）、新居浜（愛媛）の四国勢をはじめ6校が到着、さっそく長野（大阪）×桜台（愛知）が顔合せ。翌日から鈴鹿市立平田町中学3面、本田技研2面のコートをフル回転させ、それぞれタイプの違う相手を選んで実戦訓れん（20分ハーフ）を積んだ。

12日間に姿を見せたチームは15で今秋国体を迎える地元三重が、選抜チームを常駐させ、10日間に29試合をこなしたほか、明徳（千葉）も9日間で22試合のハードスケジュールを乗り切った。

各校の指導者を驚嘆させたのが岩国工（山口）。17戦負けを知らず総得点212、総失点110の快記録をマーク。

早くも「インターハイ優勝」の声がとんだ。本誌まとめによる参加各校の勝敗は次の通り。

	試合	勝	分	敗
三重選抜	29	13	3	13
明徳（千葉）	22	21	1	9
新居浜（愛媛）	19	5	3	11
岩国工（山口）	17	15	2	0
坂出工（香川）	17	1	4	12
清水商（静岡）	13	7	2	4
武庫（兵庫）	12	8	1	3
名南工（愛知）	11	6	3	2
初芝（大阪）	11	6	1	4
桜台（愛知）	11	5	1	5
長野（大阪）	11	3	1	7
中京（愛知）	11	1	0	10
添上（奈良）	8	4	1	3
高岡商（富山）	7	3	1	3
氷見（富山）	5	1	0	4

自衛隊勝田が優勝

▼茨城県一般春季選手権（4月・自衛隊勝田）

▽決勝リーグ

自衛隊勝田 21—8 茨城大

施設校生徒 16—10 東海オールズ

東海オールズ 15—7 茨城大

自衛隊勝田 30—7 施設校生徒

茨城大 16—3 施設校生徒

自衛隊勝田 19—5 東海オールズ

【順位】①自衛隊勝田3戦全勝②東海オールズ・茨城大・施設学校（自衛隊）生徒1勝2敗

千葉実業団は陸自下志津

▼千葉県実業団春季定期戦（4月・市原市丸善石油体育館）＝男子のみ

▽1部

丸善石油 14（分）14 海自木更津

三井石油化学 18—14 丸善石油

陸自下志津 17—13 海自木更津

陸自下志津 21—19 三井石油化学

三井石油化学 30—6 海自木更津

陸自下志津 22—16 丸善石油

【順位】①陸上自衛隊下志津高射校3戦全勝②三井石油化学2勝1敗③丸善石油千葉・海上自衛隊木更津補給所1分2敗⑤海上自衛隊下総教空群棄権

【2部順位】①海上自衛隊下総6戦全勝②海上自衛隊21空群5勝1敗③住友千葉化学・日産石油化学3勝3敗⑤陸上自衛隊第一ヘリ団・陸上自衛隊空挺団2勝4敗⑦ヤトロン6敗

女子で三宅の宿願成る

▼東京都高校春季大会（5月）

▽男子決勝リーグ

拓大一 15—4 国立

小岩 9—8 日体荏原

拓大一 16—8 日体荏原

小岩 7—5 国立

日体荏原 13—3 国立

拓大一 15—8 小岩

【順位】①拓大一②小岩③日体荏原④国立

▽女子決勝リーグ

三宅 8—3 府中

桐朋 8—7 府中

小平 10—8 桐朋

府中 5—3 小平

三宅 9—6 桐朋

小平 8—5 三宅

【順位】①三宅②小平③桐朋④府中

佐賀教員が2連勝

▼第2回佐賀県春季総合選手権（5月・神埼農高）

▽男子準々決勝

白石ク 13—11 神埼ク

佐賀教員 13—5 佐賀商高

神埼農高 15—4 鹿島実高

佐賀農高 14—7 神埼高

▽同準決勝

佐賀教員 19—10 白石ク

佐賀農高 10—9 神埼農高

▽同決勝

佐賀教員 15（6—5、9—6）11 佐賀農高

▽女子準決勝

神埼ク 10—0 嬉野商高

神埼農高 11—2 佐賀女高

▽同決勝

神埼ク 8（3—5、5—1）6 神埼農高

Bグループは日鉄建材

▼大阪府民体育大会ハンドボール競技（5月・三国ケ丘高）

▽男子Aグループ準々決勝

大阪イーグルス 27―3 都島工ク、湧永薬品、大山商会、オールドイーグルスは相手棄権で不戦勝、

▽同準決勝

湧永薬品 不戦勝 大阪イーグルス

大山商会 不戦勝 O・イーグルス

▽同決勝

湧永薬品 25（14―5、11―5）10 大山商会

▽同Bグループ準々決勝

たかつク 11―7 富田林ク

日鉄建材 14―12 桃陰ク

大阪府立工専 18―16 六陵ク

上の宮ク 20―19 新北野ク

▽同準決勝

日鉄建材 12―8 たかつク

大阪府立工専 17―5 上の宮ク

▽同決勝

日鉄建材 20（11―10、9―8）18 大阪府立工専

▽女子準々決勝

寝屋川ク 8―5 大和銀行

門真ク 5―4 大阪スターズ

桃陰ク 不戦勝 豊陵会

大谷ク 7―5 住学ク

▽同準決勝

寝屋川ク 10―3 門真ク

大谷ク 9―3 桃陰ク

▽同決勝

寝屋川ク 8（6―3、2―1）4 大谷ク

男女とも小松勢勝つ

▼石川県高校春季大会（4月・金沢美術工芸大体育館）

▽男子準々決勝

県工 22―10 宝達

小松工 8―7 小松

星稜 16―7 寺井

泉丘 22―9 小松商

▽同準決勝

小松工 13―12 県工

星稜 18（延）17 泉丘

▽同決勝

小松工 21（8―4、13―4）8 星稜

▽女子準々決勝

小松市女 22―2 金沢商

星稜 9―6 短大高

大谷 14―12 小松商

松任 18―1 津幡

▽同準決勝

小松市女 24―1 星稜

大谷 9―6 松任

▽同決勝

小松市女 18（8―1、10―2）3 大谷

島根は浜田勢強味

▼島根県高校トーナメント（4月 浜田商高）

▽男子1回戦（2試合）

松江南 29―11 江ノ川

松江農 18―9 松江商（初加盟）

▽同準決勝

松江南 25―13 松江工

浜田水産 28―6 松江農

▽同3位決定戦

松江工 15―9 松江農

▽同決勝

浜田水産 28（14―5、14―8）13 松江南

▽女子1回戦（2試合）

江ノ川 不戦勝 松江農

浜田商 12―1 松江南

▽同準決勝

松江家政 20―2 江ノ川

浜田商 15―6 松江市女

▽同決勝

浜田商 11（5―3、6―5）8 松江家政

大同製鋼高蔵が発足　全日本チャンピオン・大同製鋼（愛知）に、このほど第2チームともいうべき同社高蔵チームが発足。

▽監督　戸谷克蔵▽コーチ更谷章二▽主将桐山保▽マネジャー（兼選手）原田進▽アシスタントマネジャー　和田育子、杉原敏子、

投書欄　明日への提言

今こそ「国体」開放を

文部省が、体協に対して「国体は、各競技団体の登録者しか参加できない。登録者以外の一般市民も参加できるようにすべきだ」との要望をつきつけたそうだ。

これは、新聞で読んだことだが、一理ある意見だと思う。

ハンドボール界も機関誌などから推すと、国体の性格についてかなり論議が繰り返されているようだが、大筋は旧態依然である。

文部省の要望は、理想論であって、実施するとなれば、現実にはさまざまな問題を生みそうだが、少くとも、その要望の精神は汲みとるべきだろう。

そこで、今こそ国体ハンドボールを開放すべきとみて次の提案をする。

一、日本実業団リーグ登録選手（男女）の参加辞退

一、一般C登録チームの参加承認

一、学連に登録していない大学の学生の出場承認（特に女子）

一、レフェリーは、A級にこだわらず開催県及びその隣接県のC級以上のレフェリーで運行する。

一、少年の部に高校および高専の単独校出場を認めない。

一、各種別とも開催県代表を2チームとする。

一、教員を成年男子に吸収する

【東京、K・S生、28才】

▽……K・Sさん、至急住所をご連絡下さい。（編集委）

編集後記

□……日本協会はモントリオールオリンピック・アジア予選のさまざまな課題解決に苦慮しています。

このほか、佐賀国体の規模縮少、アジア連盟問題、さらにはモントリオールの会場工事ストにともなう一騒ぎ…。

□……復雑多岐な問題を乗り切るために、各専門委員会の動きが、今期ほど重視されていることはありません。専門委員会という〝組織〟が近年、理解を高めつつあるのは喜ばしいことです。

□……編集新スタッフの一人として青木敬子さんを迎えました熱心な読者の一人で、今春、高校を卒業したばかり。ハンドボールへの愛着を、若い感覚で表現する今後の活動に期待して下さい。

□……先月号は連休さらに春斗のあおりで、皆さまのお手元に届いたのが、10日すぎだったようです。新しいニュースを早くと願うスタッフにとっても残念なことでした。また、読者からの通信なども遅れて着き、各地の記録は次号まわしにしたものがかなりあります。

□……編集兼発行人が保坂周助氏（副会長）から、荒川清美氏（理事長）に代わりました。

守るも 攻めるも

強いチーム。
例外なくオフェンス力とディフェンス力がバランスよくつり合っています。会社の中でも同じこと。臨機応変の攻撃力と完璧の守備力があって、はじめて会社の実績はあがります。
だから、OMRON電卓。最前戦にはハンディ・タイプ、オフィスには卓上タイプ……と6桁から12桁まで、守備、攻撃のポジションに合わせてお選びください。

信頼のOMRON電卓シリーズ

お求めやすい
6桁ハンディ・タイプ



OMRON 60N
¥8,450

8桁％キーつき
ハンディ・タイプ



OMRON 82
¥13,800/ACアダプタつき

8桁メモリつき
充電式の卓上形



OMRON 815D
¥19,800

複雑な業務計算用
12桁卓上形



OMRON 1215
¥44,800



●資料のご請求は本社PRセンタまで　立石電機株式会社　本社／〒616京都市右京区花園土堂町10　075(463)1161大代

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一三一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五〇年五月二十五日印刷 昭和五〇年六月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京 谷区神南一－一－一
電話 大代表(㈹)三二二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 二百五十円（年間購読料二千五百円）